14.4
946

0032224003

0032224-003

14. 4-946

千葉県勢要覧

千葉県総務部統計課・編

千葉県

昭和１１至１４年

昭１１至１４

AFB

14.4
946

兵縣勢要覽

昭和十三年刊行

帝國圖書館藏

千葉縣勢要覽

昭和十三年刊行

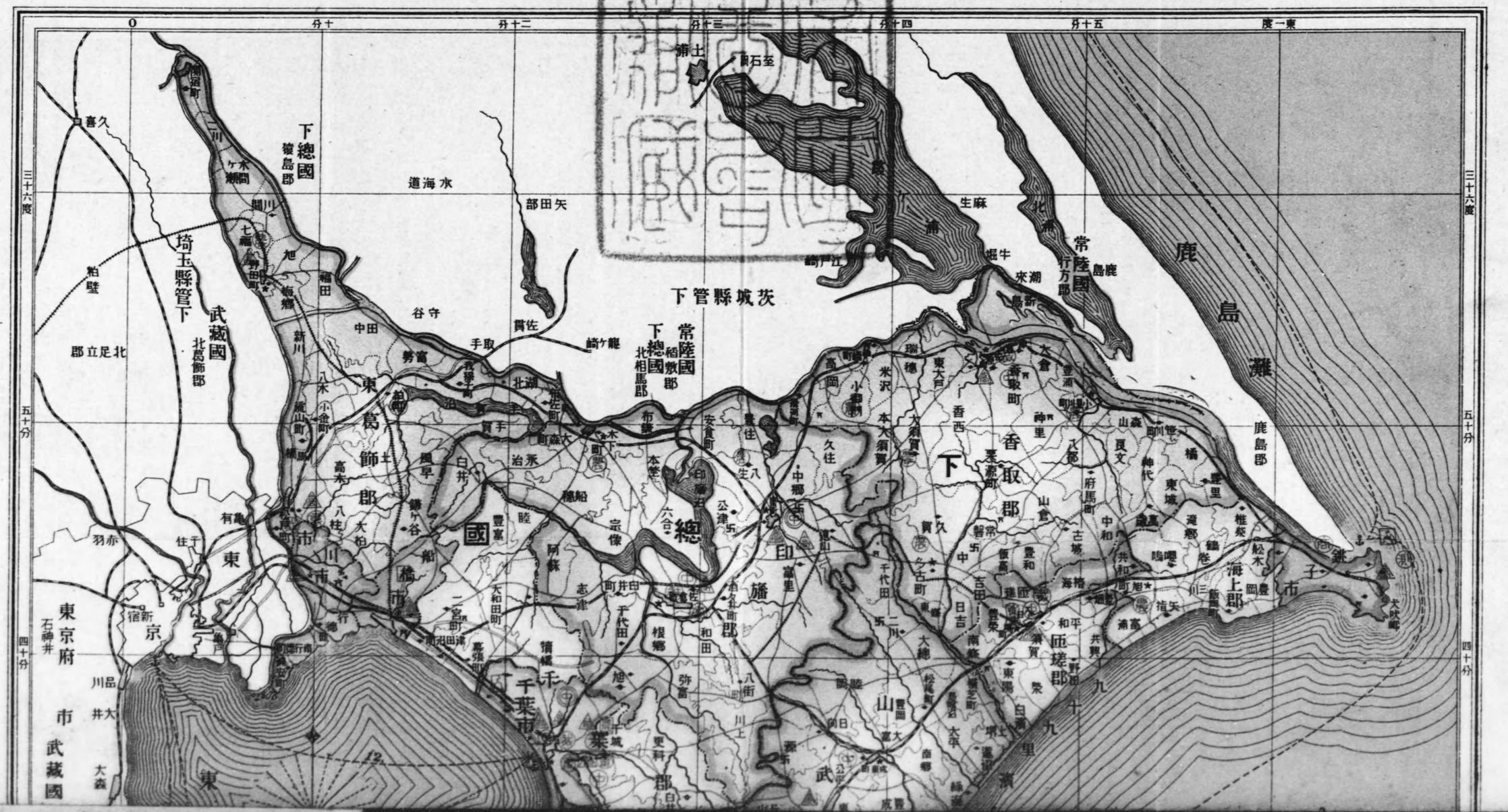
昭和十三年 帝國圖書館藏

發行所寄贈本

昭和六年東京帝國大學司令部地乙第一二九號許可濟
三十分
二十分
十分
三十五度
符
國道
縣道
國界
郡市界
町村界
市街
縣廳
碇泊所
神社
寺院
師範學校
中學校
高等女學校
高等農業學校

昭和十三年許可
東京帝國大學
地理學教室
本

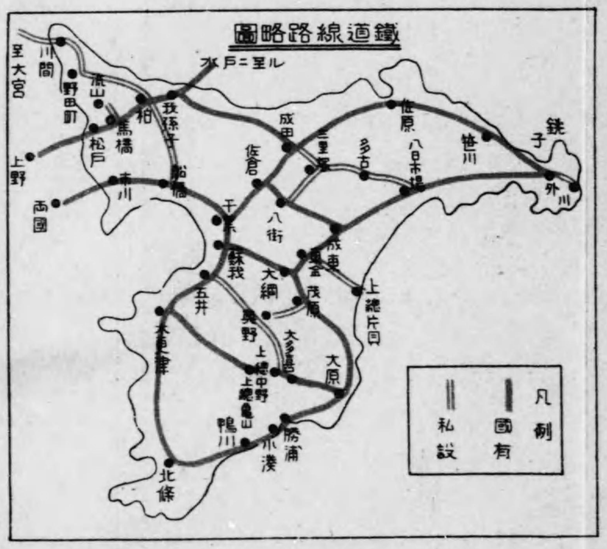
千葉縣管内全圖


東京府
武藏國
埼玉縣管下
下總國
常陸國
茨城縣管下
東京市
千葉市
銚子市
市川市
船橋市
東葛飾郡
印旛郡
香取郡
海上郡
匝瑳郡
山武郡
長生郡
夷隅郡
安房郡
朝夷郡
鹿島灘
利根川
江戸川
手賀沼
印旛沼
霞ヶ浦
北浦
東京灣
水海道
矢田部
生麻
牛堀
來潮
鹿島
行方郡
鹿島郡
北足立郡
北葛飾郡
猿島郡
稻敷郡
北相馬郡
布鎌
本埜
安食町
印旛沼
公津
六合
根郷
和田
八街
川上
弥富
更科
千代田
中郷
久住
香西
米沢
本大須賀
大須賀
瑞穂
東大戸
高岡
小御門
久倉
豊住
生尾
木下
大森
永治
宗像
阿蘇
志津
情緒
大和田町
二宮町
嘉張町
豊富
白井
鎌ヶ谷
船橋
高根
八柱
大柏
高木
小金
八木
新川
中田
谷守
手取
佐貫
龍ヶ崎
我孫子
北柏
沼南
布佐
利根
柏
勢富
稲田
栗原
野田
七福
旭
二川
木間ヶ瀬
間川
柏壁
喜久
羽赤
有亀
住吉
宿新
石神井
川口
大井
大森
亀戸
小岩
市川
行徳
幸谷
新宿
千代田
中野
豊島
練馬
板橋
王子
荒川
足立
葛飾
江戸川
中川
綾瀬
荒川
隅田川
多摩川
入間川
荒川
利根川
江戸川
手賀沼
印旛沼
霞ヶ浦
北浦
東京灣
鹿島灘
0
十分
二十分
三十分
四十分
五十分
東一度
三十六度
四十分
五十分
三十六度

昭和六年東京灣要塞司令部地乙第一二九號許可濟
東京灣
武藏國
神奈川縣
三浦郡
橫濱市
久良岐郡
橫須賀市
上總國
安房國
東隅郡
長生郡
夷隅郡
君津郡
安房郡
鹿山灣
號
符
國道
縣道
神社
寺院
郡市界
町村界
師範學校
中學校
高等女學校
市街
縣廳
裁判所
警察署
郵便局
測候所
燈臺
鐵道
生糸學校
私立高等學校
私立中學校
水産學校
商業學校
農學校
高等農業學校
農林省
高等試驗場
電車線路
水産試驗場
蚕業試驗場
農業試驗場
地方鐵道線路
河川
池沼
山丘
醫科大學
無線電信
畜産場
漁村道場
碇泊所
航路

縣内鐵道粁程及賃金表

昭和十三年



（表中黑書ハ粁程、朱書ハ三等賃金ニシテ各線毎ニ計算セリ）

	上野	松戸	馬橋	小金	柏	我孫子	北柵	佐倉	下木	林小	食安	下總松崎	成田
松戸	17.9 29												
馬橋	21.3 35	3.4 7											
小金北	24.2 39	6.3 11	2.9 5										
柏	29.1 47	11.2 19	7.8 13	4.9 8									
我孫子	33.5 54	15.6 25	12.2 21	9.3 16	4.4 8								
北柵	39.8 63	21.9 35	18.5 30	15.6 25	10.7 18	6.3 11							
佐倉	45.6 72	27.7 44	24.3 39	21.4 35	16.5 27	12.1 21	5.8 10						
下木	47.5 75	29.6 47	26.2 43	23.3 38	18.4 30	14.0 22	7.7 13	1.9 5					
林小	51.8 82	33.9 54	30.5 49	27.6 44	22.7 36	18.3 30	12.0 19	6.2 11	4.3 8				
食安	56.7 89	38.8 61	35.4 57	32.5 52	27.6 44	23.2 38	16.9 27	11.1 19	9.2 16	4.9 8			
下總松崎	61.3 97	43.4 69	40.0 63	37.1 60	32.2 52	27.8 44	21.5 35	15.7 25	13.8 22	9.5 16	4.6 8		
成田	66.4 1.05	48.5 77	45.1 72	42.2 68	37.3 60	32.9 52	26.6 43	20.8 33	18.9 30	14.6 24	9.7 16	5.1 10	

	流山	馬橋	大谷口	橋馬	崎鎌	大口
流山	2.1 6	3.5 11	5.7 18			
鎌崎		1.4 5	3.6 12			
大谷口			2.2 7			

	東京	國府	川市	本八幡	下總中山	船橋	津田沼	幕張	稲毛	千葉	四ツ街道	佐倉	南酒々井	八街	日向	成東	松尾	横芝	八日市場	千潟	旭町	飯岡	銚田	松岸
東京	121.1 1.80	117.9 1.75	112.4 1.69	106.9 1.61	104.2 1.58	99.4 1.51	94.3 1.45	87.4 1.36	83.1 1.31	77.5 1.22	72.3 1.14	66.5 1.05	59.9 94	55.9 88	47.5 75	40.5 64	36.5 58	32.2 52	27.3 44	23.8 38	19.6 32	18.0 29	16.0 25	3.9 10
國府	117.2 1.75	114.0 1.70	108.5 1.63	103.0 1.55	100.3 1.53	95.5 1.46	90.4 1.40	83.5 1.31	79.2 1.25	73.6 1.16	68.4 1.08	62.6 99	56.0 88	52.0 82	43.6 69	36.6 58	32.6 52	28.3 46	23.4 38	19.9 32	15.7 25	14.1 22	12.1 21	
市川	105.1 1.59	101.9 1.54	96.4 1.48	90.9 1.40	88.2 1.37	83.4 1.31	78.3 1.24	71.4 1.13	67.1 1.07	61.5 97	56.3 89	50.5 80	43.9 69	39.9 63	31.5 50	24.5 39	20.5 33	16.2 27	11.3 19	7.8 13	3.6 7	2.0 5		
本八幡	103.1 1.57	99.9 1.51	94.4 1.45	88.9 1.37	86.2 1.34	81.4 1.28	76.3 1.21	69.4 1.10	65.1 1.03	59.5 94	54.3 86	48.5 77	41.9 66	37.9 60	29.5 47	22.5 36	81.5 30	14.2 24	9.3 16	5.8 10	1.6 5		
下總中山	101.5 1.54	98.3 1.50	92.8 1.42	87.3 1.36	84.6 1.32	79.8 1.25	74.7 1.17	67.8 1.07	63.5 1.00	57.9 91	52.7 83	46.9 74	40.3 64	36.3 58	27.9 44	20.9 33	16.9 27	12.6 21	7.7 13	4.2 8				
船橋	97.3 1.49	94.1 1.45	88.6 1.37	83.1 1.36	80.4 1.27	75.6 1.19	70.5 1.11	63.6 1.00	59.3 94	53.7 85	48.5 77	42.7 68	36.1 58	32.1 52	23.7 38	16.7 27	12.7 21	8.4 15	3.5 7					
津田沼	93.8 1.44	90.6 1.40	85.1 1.33	79.6 1.25	76.9 1.21	72.1 1.14	67.0 1.05	60.1 96	55.8 88	50.2 80	45.0 71	39.2 63	32.6 52	28.6 46	20.2 33	13.2 22	9.2 16	4.9 8						
幕張	88.9 1.37	85.7 1.33	80.2 1.27	74.7 1.17	72.0 1.13	67.2 1.07	62.1 99	55.2 88	50.9 80	45.3 72	40.1 64	34.3 55	27.7 44	23.7 38	15.3 25	8.3 15	4.3 8							
稲毛	84.6 1.32	81.4 1.28	75.9 1.19	70.4 1.11	67.7 1.07	62.9 99	57.8 91	50.9 80	46.6 74	41.0 64	35.8 57	30.0 47	23.4 38	19.4 32	11.0 18	4.0 7								
千葉	80.6 1.27	77.4 1.22	71.9 1.13	66.4 1.05	63.7 1.00	58.9 93	53.8 85	46.9 74	42.6 68	37.0 58	31.8 50	26.0 41	19.4 32	15.4 25	7.0 11									
四ツ街道	73.6 1.16	70.4 1.11	64.9 1.02	59.4 94	56.7 89	51.9 82	46.8 74	39.9 63	35.6 57	30.0 47	24.8 39	19.0 30	12.4 21	8.4 15										
佐倉	65.2 1.03	62.0 97	56.5 89	51.0 80	48.3 77	43.6 69	38.4 61	31.5 50	27.2 44	21.6 35	16.4 27	10.6 18	4.0 7											
南酒々井	61.2 97	58.0 91	52.5 83	47.0 74	44.3 71	39.5 63	34.4 55	27.5 44	23.2 38	17.6 29	12.4 21	6.6 11												
八街	54.6 86	51.4 82	45.9 72	40.4 64	37.7 60	32.9 52	27.8 44	20.9 33	16.6 27	11.0 18	5.8 10													
日向	48.8 77	45.6 72	40.1 64	34.6 55	31.9 50	27.1 44	22.0 35	15.1 25	10.8 18	5.2 10														
成東	43.6 69	40.4 64	34.9 55	29.4 47	26.7 43	21.9 35	16.8 27	9.9 16	5.6 10															
松尾	38.0 60	34.8 55	29.3 47	23.8 38	21.1 35	16.3 27	11.2 19	4.3 8																
横芝	33.7 54	30.5 49	25.0 39	19.5 32	16.8 27	12.0 19	6.9 11																	
八日市場	26.8 43	23.6 38	18.1 30	12.6 21	9.9 16	5.1 10																		
千潟	21.7 35	18.5 30	13.0 21	7.5 13	4.8 8																			
旭町	16.9 27	13.7 22	8.2 15	2.7 5																				
飯岡	14.2 24	11.0 18	5.5 10																					
銚田	8.7 15	5.5 10																						
松岸	3.2 7																							

	鶴川	天津	小湊	上總興津	鵜原	勝浦	御宿	浪花	大原	三門	長者町	太東	東浪見	上總一宮	八積	茂原	本納	大網	土氣	譽田	薬我
東京		5.5 10	3.5 7	7.0 11	10.5 18	13.3 22	16.8 27	22.3 36													
國府																					
市川																					
本八幡																					
下總中山																					
船橋																					
津田沼																					
幕張																					
稲毛																					
千葉																					
四ツ街道																					
佐倉																					
南酒々井																					
八街																					
日向																					
成東																					
松尾																					
横芝																					
八日市場																					
千潟																					
旭町																					
飯岡																					
銚田																					
松岸																					

	外川	犬吠	海鹿島	笠上黒生	銚本子	觀音	仲ノ町	子銚	奥野	森笠寺	上總持藏	長南	千田	豐樂	須田	茂原	上茂原	藻原寺	茂原	上總高師	茂原
外川	6.4 20	5.9 20	5.3 16	4.5 16	3.6 12	2.8 8	0.5 4														
犬吠	5.9 20	5.4 20	4.8 16	4.0 16	3.1 12	2.3 8															
海鹿島	3.6 12	3.1 12	2.5 8	1.7 8	0.8 4																
笠上黒生	2.8 8	2.3 4	1.7 4	0.9 4																	
銚本子	1.9 4	1.4 4	0.8 4																		
觀音	1.1 4	0.6 4																			
仲ノ町	0.5 4																				
子銚																					
奥野																					
森笠寺										1.0 5											
上總持藏										1.8 5	1.6 7										
長南										3.0 8	4.0 10										
千田										4.0 10	5.0 13										
豐樂										4.9 13	5.9 15										
須田										6.4 16	7.4 19										
茂原										7.3 19	8.3 21										
上茂原										9.4 24	10.4 26										
藻原寺										10.3 26	11.2 28										
茂原										10.6 27	11.6 29										
上總高師										12.2	12.2										
茂原																					

	大網	東金	求名	成東	上總片口	木更津	上總清川	上總川津	横田	馬來田	小櫃	俵田	久里留	平山	上總松丘	上總山邊
大網	13.8 22	9.6 16	6.8 10													
東金	8.0 13	3.8 7														
求名	4.2 8															
成東																
上總片口																
木更津																
上總清川								4.2 8								
上總川津																
横田								5.1 10	9.3 16							
馬來田								9.7 16	13.9 22							
小櫃										4.3 8	8.9 15					
俵田										6.1 11	10.7 18	15.8 25	20.0 32			
久里留										8.7 15	13.3 22	18.4 30	22.6 36			
平山										11.8 19	16.4 27	21.5 35	25.7 41			
上總松丘										14.4 24	19.0 30	24.1 39	28.3 46			
上總山邊										18.3 30	22.9 36	23.0 44	32.2 52			

	寺	6	8	12	14	16	19	24	26	寺
本茂原	0.9 5	3.0 8	3.9 10	5.4 14	6.3 16	7.3 19	8.5 22	10.3 26	11.2 28	茂原本
上總高師	0.3 5	1.2 5	3.3 9	4.2 11	5.7 15	6.6 17	7.6 19	8.8 22	10.6 27	上總高師
茂原	0.6 5	0.9 5	1.8 5	3.9 10	4.8 12	6.3 16	7.2 18	8.2 21	9.4 24	11.2 28	12.2 31	茂原

	曽	5	8	15	22	30	36	里
平山	3.1 7	5.7 10	7.5 13	11.8 19	16.4 27	21.5 35	25.7 41	山平
上總松丘	2.6 5	5.7 10	8.3 15	10.1 18	14.4 24	19.0 30	24.1 39	28.3 46	上總松丘
上總鳥山	3.9 7	6.5 11	9.6 16	12.2 21	14.0 22	18.3 30	22.9 36	23.0 44	32.2 52	上總鳥山

| | 子鍬 | | |

14.4
946

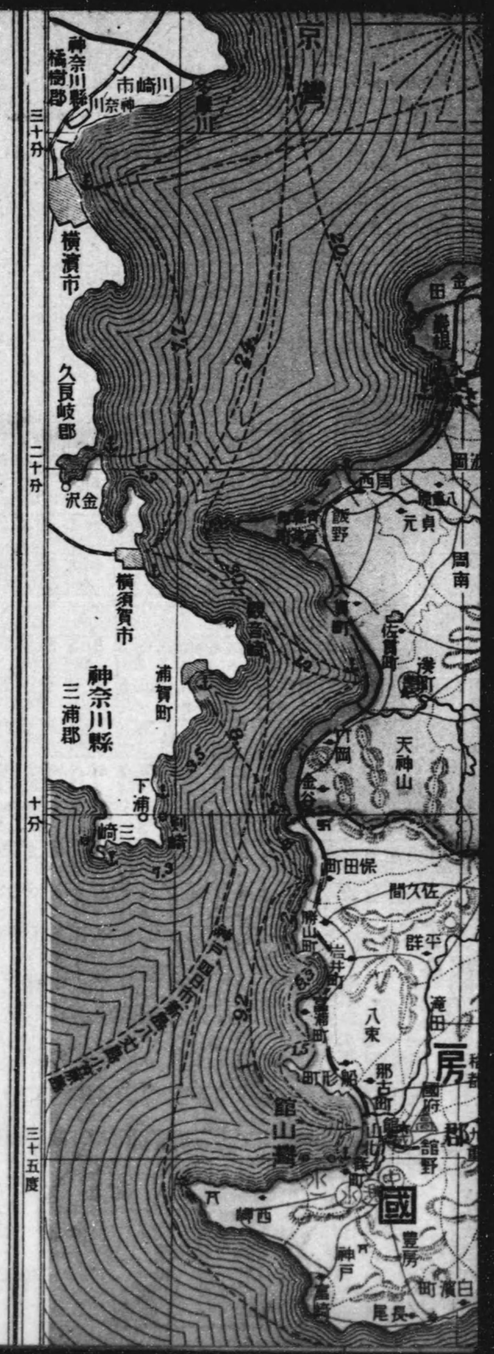
凡例

一、本書ハ本縣々勢ノ概要ヲ知ルノ便ニ供セムカ爲其最モ主要ナル事項ヲ輯錄セルモノナリ

一、本書ハ專ラ昭和十一年(度)ノ事實ヲ掲載スルニ在リタルモ多クハ既往五ケ年ノ事實ヲ併記シ彼是消長ノ有樣ヲ通觀スルノ便ニ供セリ

昭和十三年三月

千葉縣總務部統計課



目次

一 位置……一
二 面積……二
三 郡市町村區劃……四
四 土地……六
五 氣候……八
六 人口……九
七 婚姻、離婚、生產、死產、死亡……一三
八 生產總價額……一四
九 農產……一五
一〇 蠶絲……一三
一一 畜產……二四
一二 林產……二九

一三 鑛産……三一
一四 水産……三二
一五 工産……三八
一六 會社……四二
一七 銀行……四三
一八 貯蓄……四五
一九 産業組合……四八
二〇 道路……四九
二一 鐵道及軌道……五〇
二二 諸車……五三
二三 船舶……五四
二四 小學校……五六
二五 諸學校（小學校ヲ除ク）……五七
二六 公學費……五九

二七 社寺・教會……六一
二八 衛生機關……六五
二九 十種傳染病……六六
三〇 縣財政……六八
三一 市町村財政……七八
三二 諸稅負擔……八〇
三三 議會……八一
三四 官吏……八五
三五 最近十年間ニ於ケル消長……八七

附錄

一 著名神社……九一
二 著名寺院……九六

三國寶……四
四史蹟名勝……一〇七
五天然記念物……一一一
六歷代長官……一一三
七貴衆兩院及縣會議員……一一四

一位置

本縣ハ本州中部ノ東端ニ位シ、東西ニ狹ク、南北ニ長ク、外海ニ突出スル半島狀ノ地形ニシテ東及南ノ二方ハ太平洋ニ面シ、西ハ一部東京灣ニ臨ミ、他ハ江戸川ヲ隔テテ東京府及埼玉縣ニ接シ、北ハ利根川ヲ限リテ茨城縣ト界ス。之ヲ經緯度ニ繹スルニ、東經百三十九度四十五分ヨリ一百四十度五十三分、北緯三十四度五十五分ヨリ三十六度六分ニ至レリ。

縣廳所在地　千葉市

極東	銚子市飯沼鹿島	東經	一四〇・五三
極西	安房郡西岬村洲崎	同	一三九・四五
極南	同郡白濱町白濱野島崎	北緯	三四・五五
極北	東葛飾郡關宿町大字三軒家稻荷耕地	同	三六・〇六

東經　一四度〇・〇七分
北緯　三五・三六

二　面　積

本縣ノ面積ハ五千六十二方粁餘、東西九十六粁餘、南北百二十九粁餘ニシテ其ノ周圍五百六十一粁强、沿海線三百七十七粁餘ニ及ビ全國ノ總面積三十八萬七千九百四方粁ニ對比スルトキハ一分三厘ニ當リ全國一道四十六府縣中第二十七位ニ在リ。

國郡市ノ面積、廣袤、周圍、沿海線

	面積	廣	袤	周圍	沿海線
	方粁	粁	粁	粁	粁
全管	五、〇六二・〇九	九六・七五	一二九・三八	五六一・六〇	三七・七七
安房國	五六六・一七	四一・一一	三〇・〇〇	一七〇・七三	一二二・八三
上總國	二、二五二・七七	四一・一一	三〇・〇〇	一七〇・七三	一七〇・二九
夷隅郡	四一五・二五	六六・三二	七〇・三六	三五五・三一	四三・四二
君津郡	七三六・九五	二〇〇・〇〇	二六・六二	一九・一八	六八・〇七
長生郡	三二・四八	三四・九一	三二・二九	一五三・一六	二二・六九
山武郡	四二二・六二	二一・八二	三二・〇七	一六八・五四	一八・九八
市原郡	三五五・四六	二三・一二	二四・九一	一四七・八一	一七・一二
下總國	二、二四三・一五	九四・八〇	六三・〇五	四二二・三一	八四・六五
千葉郡	一九二・六九	二六・〇七	一九・七八	一三三・七四	一五・〇六
東葛飾郡	四五八・三三	三一・六三	五一・二七	一八〇・六五	一七・二四
印旛郡	六二二・三九	三三・六〇	三二・七三	二〇一・一六	—
香取郡	五五九・一七	三八・二八	三〇・五四	一八五・八九	—
海上郡	一二五・九二	二四・七六	一二・五四	八四・九八	二七・一六
匝瑳郡	一一〇・一八	一五・七一	一六・五八	八一・〇五	九・〇五
千葉市	一五・九七	五・一二	六・四二	二一・七一	七・二〇
銚子市	二五・五五	八・九四	五・三五	二五・三一	八・八四
市川市	二二・九五	六・四三	七・二〇	二五・六三	—

三　郡市町村區劃

本縣ノ行政區劃ハ四市十二郡ニ分割セラレ、町村數三百二十ニシテ内町八十二、村二百三十八ナリ。（昭和十三年二月十一日現在）

		町	村	計	役所役場
安房郡	一	四	六	一〇	一〇
夷隅郡	一	七	一五	二二	二二
君津郡	一	八	一三	二一	二一
長生郡	一	四	元	一三	一三
山武郡	一	八	一六	二四	二四
市原郡	一	五	八	一三	一三
千葉郡	一	五	八	一三	一三
東葛飾郡	一	一	一〇	一一	一一
印旛郡	一	八	一三	二一	二一
香取郡	一	九	一三	二二	二二
海上郡	一	二	九	一一	一一
匝瑳郡	一	一	一三	一四	一四
千葉市	一	一	一	一	一
銚子市	一	一	一	一	一
市川市	一	一	一	一	一
船橋市	一	一	一	一	一
計	四	三	二八	三四	三四

四　土　地

本縣ノ土地ハ總地積三十九萬六千四百九十四町一段歩ニシテ、內御料地五千九百六十四町四段歩、國有地二萬三千五百三十七町一段歩、民有地三十六萬六千九百九十二町六段歩ナリ。而シテ更ニ之ヲ地類別ニ分テバ田十萬六千七百十三町一段歩、畑八萬四千二百六十二町、宅地一萬七千三百三十四町、池沼七千六百十町、山林十四萬四千六百七十一町六段歩、原野二萬二千七百五十二町一段歩、其他一萬三千百五十一町三段歩ニシテ卽チ山林最モ多ク總面積ノ三六・四%ヲ占メ田ノ二六・九%畑ノ二一・二%原野ノ五・七%宅地ノ四・三%順次之ニ亞キ其ノ他ハ何レモ二・〇%未滿ナリ。

土地地種別總地積（昭和十二年一月一日現在）

	民有地					國有地	御料地	總地積中
	有租地	無租地	免租年期地	計	合計			
田	九、五町	一〇六、五八三・二町	一 町	九三・四町	一〇六、六七六・六町	一〇六、七二三・一町	二七・〇町	二六九・一町
畑	九二六・七	四一・八	八三、二八〇・一	一三・四	八四、二六二・〇	二二二・五		
宅地	一〇・八	—	一一・五	—	一七、三三四・〇	四三・七		
鹽田	—	—	一七、三一〇・五	一・二	一七、三二一・七	〇		
池沼	一・五	六、一一九・一	八・七	—	八・七	一九・二		
山林	三、八八九・三	一〇、六八七・五	一、〇九三・四	一、四八九・四	七、六一〇・〇	三六四・九		
牧場	一、四〇二・二	一二、七〇二・六	三九六・〇	一三二、〇九四・八	一四四、六七一・六	八・二		
原野	六八三・一	—	八八・五	—	八二四・四	五七・四		
雜種地	二三・八	一、八三二・三	二、九七九・九	一、八三二・三	三、二三四・五	七・三		
寺社地	—	一、五三四・九	九二四・七	—	一・六	二、八七四・八		
官衙學校用地及其ノ他敷地	六一・九	—	—	三九一・四	三、九八〇・五	九六・三		
計	五、九六四・四	四、九八二・四	二三、五三七・一	三四・四	二三、七五二・一	〇・二		
		—	三六二、七一四・四	一、三二六・一	二、八七四・八	七・三		
		一、九五四・六	二、九五二・八	三四・四	九六・三	五七・四		
		—	一、三二五・四	一、九五四・六	六、九三七・〇	一七・五		
		三六六、九九二・六	三六六、四九四・一	—				

五　氣　候

本縣ハ東、南、西ノ三面海ヲ環ラシ、自ラ半島ノ地形ヲナシ、氣候概ネ溫和ナリ、殊ニ南東ノ沿海部ハ海洋風ノ恩惠ニ浴シ寒暑ノ差少ク積雪ノ如キハ珍シキ現象ニ屬シ、就中其ノ最モ高溫ナルハ房南外洋面ノ地ニシテ年平均溫度攝氏十九度(華氏六十六度內外)ナルモ北西ノ平原ニ至リテハ寒暖ノ較差稍々多クシテ攝氏十四度餘(華氏五十七度)內外ナリ、降水量ハ南部安房郡地方最モ多ク、全年ノ總量二千二十粍ニ達シ北部ニ至リテ減少シ海上郡、銚子地方最モ少ク一千五百七十八粍トス。又一ヶ年中降水量最モ多キ時期ハ十月ニシテ最モ少キ時期ハ通常十二月ヨリ一月ニ至ル候ナリ。

氣溫及降水量（銚子觀測）

(一)ハ零度以下ヲ示ス

	氣溫 最高ノ極	氣溫 最低ノ極	氣溫 平均	降水量 總量	降水量 最大日量
昭和十一年	三一・七	(一)五・〇	一四・一	一、五七〇・八	一五一・七
同十年	三一・七	(一)三・〇	一四・三	一、六三六・九	一四〇・〇
同九年	三〇・九	(一)二・八	一四・一	一、二七二・三	七六・八
同八年	三二・〇	(一)二・三	一五・一	一、三四二・九	七六・五
同七年	三一・九	(一)一・二	一五・〇	一、七一九・四	一〇五・六

六　人　口

昭和十一年十月一日現在ノ本縣現住人口ハ百五十一萬八千五百六十二人（陸海軍ノ部隊艦船、刑務所等ニ在リタル者ヲ除ク）ニシテ一方粁ニ付三〇〇・〇人ニ當リ內男ハ七十四萬一千八百二十四人、女ハ七十七萬六千七百三十八人ニシテ女百ニ付男九五・五〇ノ割合ナリ、又世帶數二十九萬二百八十一ニシテ一世帶當リ五・二三人ナリ。

現住人口

	面積（方粁）	男	女	計	世帶數	一方粁ニ付人口	一世帶ニ付人口
安房郡	五六六・一七	七七、一五〇	八二、八九八	一六〇、〇四八	三三、八六一	二八二・七	四・七三
夷隅郡	四五五・二五	四四、六四八	四六、九八五	九一、六三三	一八、三六六	二〇〇・七	四・九九
君津郡	七六六・九五	六七、五九四	六九、一四三	一三六、七三七	二六、三四二	一八五・五	五・一九
長生郡	三三三・四八	四四、四七三	四六、〇九六	九〇、五六九	一六、八〇九	二八〇・九	五・三九
山武郡	四三・六三	六一、六〇一	六四、一四一	一二五、七四二	二三、七八一	二九七・五	五・二九

市原郡	三五五・四六	三六、一七四	三六、七四三	七二、九一七	一三、五八四	二〇五・一	五・三七										
千葉郡	二九二・六九	四一、九〇七	四三、二四六	八五、一五三	一五、四一三	二九〇・九	五・五三										
東葛飾郡	四五八・三三	一〇四、一二八	一〇七、一二九	二一一、四二七	三九、七九〇	四六一・三	五・三一										
印旛郡	六三三・三九	六九、五四三	七二、五六四	一四二、一〇七	二六、四五三	二三八・三	五・三七										
香取郡	五九九・一七	七二、八二九	七七、一一〇	一四九、九三九	二六、三三一	二六八・一	五・六九										
海上郡	一二五・九二	二七、一三一	二九、一八三	五六、四一四	一〇、二五三	四四四・一	五・五〇										
匝瑳郡	一二〇・一八	三三、二八五	二三、六八八	四五、九七三	八、四二六	三六二・五	五・四六										
千葉市	一五・九七	二七、三三一	二八、六〇〇	五五、九三二	二、七一九	三、五〇二・三	四・七七										
銚子市	二五・五五	二三、七三八	二四、八〇七	四八、五四五	九、八九八	一、九八五・五	四・九〇										
市川市	三二・九五	二二、二九一	二四、一二五	四五、四二六	九、二五六	一、九七九・三	四・九一										
計	五、〇六二・〇九	七四一、八二四	七七六、七三八	一、五二八、五六二	二九〇、二八一	三〇〇・〇	五・二五										

國勢調査人口比較

	人口 男	人口 女	人口 計	一方粁ニ付人口	女百ニ付男人	前回調査ニ比シ増加割合	世帯數
昭和十年	七六四、七五一	七八一、六四三	一、五四六、三九四	三〇五	九七・八三	五二%	二九三、九四一
同五年	七二九、四三九	七四〇、六八二	一、四七〇、一三一	二八九	九八・四八	五一%	二七九、七四六
大正十四年	六九一、二四二	七〇八、〇八五	一、三九九、三五七	二七六	九七・六〇	四七%	二六九、三一七
同九年	六五六、九六八	六九、一八七	一、三三六、一五五	二六三	九六・七三	—	二五七、五八七

備考

各年十月一日現在ニシテ部隊艦船、刑務所等ニ於ケル人口ノ總テヲ包含ス。

七　婚姻、離婚、生産、死産、死亡

本縣ニ於ケル昭和十年中ノ婚姻ハ一萬二千七百十二（組）、離婚九百四十四（組）、生産五萬九百十七人、死産二千八百十九人、死亡二萬九千六十三人ニシテ人口千ニ對スル割合ハ婚姻八・二二、離婚〇・六一、生産三二・九三、死産一・八二、死亡一八・七九ニ當リ自然增加卽チ生産死亡ノ差增ハ二萬一千八百五十四人ニシテ人口千ニ付一四・一三ニ當レリ。

	昭和十年	同 九年	同 八年	同 七年	同 六年
實數 婚姻（組）	一三、七一三	一二、五三二	一二、〇八七	一二、七五二	一二、六四八
實數 離婚（組）	九四四	九二六	八九七	八九九	九八二
實數 生産	五〇、九一七	四七、一四一	四九、一七一	四九、四三〇	五一、一〇六
實數 死産	二、八一九	二、七四七	二、八四九	三、一二八	三、〇二七
實數 死亡	二九、〇六三	二九、五七七	二九、九一七	二九、五七八	三一、〇八八
實數 生産、死亡ノ差	二一、八五四	一七、六六四	一九、二五四	一九、八五二	二〇、一八
人口千ニ付 婚姻（組）	八・三	七・五五	七・三三	七・八七	七・八五
人口千ニ付 離婚（組）	〇・六一	〇・五一	〇・五九	〇・六〇	〇・六六
人口千ニ付 生産	三二・九三	三〇・九五	三二・五二	三三・〇〇	三四・五一
人口千ニ付 死産	一・八二	一・八〇	一・八八	二・〇九	二・〇四
人口千ニ付 死亡	一八・七九	一九・二八	一九・二九	一九・七五	二〇・九五
人口千ニ付 生産、死亡ノ差	一四・一三	一一・五七	一二・七三	一三・二五	一三・六六

八　生産總價額

昭和十一年ニ於ケル本縣總生産額ハ二億八千二十六萬七百十八圓ヲ算シ内農産一億七百四十萬三千三百四圓、蠶絲千三十七萬八千六百四十圓、畜産八百五十二萬八千四百七十八圓、林産四百五十七億一千八百三十六萬七千三百三十四圓、鑛産七十六萬九千二十五圓、水産三千二十四萬二千三百三十四圓、工産最モ多ク總額ノ四割二分ヲ占メ農産ノ三割八分之ニ次ギ以下水産ノ一割一分蠶絲ノ四分畜産ノ三分林産ノ二分鑛産ノ三厘ノ順序ナリ。更ニ之ヲ戸口ニ對比スレバ現住世帶一ニ付九百六十五圓、人口一人ニ付百八十五圓ニ當レリ。

	昭和十一年度	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度	昭和七年度
農産	一〇七、四〇三、三〇四円	九四、六〇〇、六九六円	八四、八九五、六二三円	七〇、四六九、九二三円	六五、三二五、七一〇円
蠶絲産	一〇、三七八、六四〇	九、二九八、一五四	五、三六、五五四	一一、四四九、五二六	七、一九四、一四七
畜産	八、五六、四七八	七、五六一、六三一	七、一〇五、一三五	六、五三〇、八九九	六、一四九、〇七二
林産	四、五七三、一三四	三、八七七、一一七	三、七九五、五七三	三、三二一、〇一三	三、〇七六、三六一
鑛産	七九九、〇二五	六七七、四一二	六三七、七七九	五七九、三〇七	四四六、七一二
水産	三〇、二四二、三三四	二三、五三一、二三一	二〇、〇一〇、八五七	一八、九四〇、八六七	一四、九六〇、九六五
工産	一二八、三六一、八〇三	一〇三、六二四、七六四	九三、四五五、二九三	七六、六六七、五三九	六二、二七六、三三六
計	二六〇、二六〇、七一八	二四三、一七一、一〇五	二一五、〇二六、八一四	一八七、九五九、〇七三	一五九、四一九、三二四
現住世帶當	九六五	八二七	七六二	六六九	五七二
現住人當	一八五	一五七	一四五	一二八	一〇九

昭和十一年ニ於ケル本縣ノ農産物總價額ハ一億七百四十萬三千三百四圓ヲ算シ就中米ハ全國道府縣中第五位ニアリテ六千六百五十萬七千九百七十五圓ノ巨額ニ上リ總額ノ六割二分ヲ占メ麥ノ千二百八十萬五千七百六十九圓之ニ次ギ園藝農産物（蔬菜類）ノ千百十一萬九千八百十圓、食用用農産物ノ九百十六萬三千二百六十七圓等其ノ主ナルモノナリ。

九　農産

（一）米

		昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年
作付段別	粳米	九七、〇八五・二 町	九六、九八九・二	九三、二三〇・七	八八、九九四・五	九六、四五四・一
	糯米	八、九四一・六	八、六九八・〇	八、二七三・六	八、〇八八・四	九、〇八一・〇
	計	一〇六、〇二六・八	一〇五、六八七・二	一〇一、五〇四・三	九七、〇八二・九	一〇五、五三五・一
收穫高	粳米 石	二、〇六五、五八六	一、八三、七七二	一、六九三、八五一	一、七二四、〇四六	一、八七〇、二一一
	糯米	一七三、八四八	一五一、二三三	一四一、五七五	一四九、〇六六	一六三、二六七
	計	二、二三九、四三四	一、九七五、〇〇五	一、八三五、四二六	一、八七三、一一三	二、〇三三、四七八
價額	円	六三、九二二、〇〇五	五七、五四七、六四一	五二、四九一、三九七	三九、四二三、六三九	三七、八六一、四一八

| | | |

アワ	一、〇四〇・三	一三、九四九	一三八、八五一		
ヒエ	一三・二	二三九	一、六六四		
キビ	三七九・八	三、九七三	四一、二七六		
トウモロコシ	一、〇七二・七	一九、九四三	一八七、九一七		
モロコシ	二六・〇	三、一一九	三一、一二六		
ソバ	一、〇二九・二	九、二七七	八三、八四七		
サツマイモ	三三、二二五・一	八四、八七二、七六八貫	六、七七六、九〇五		
サツマイモキリボシ	—	一、五四三	七三六		
ジヤガイモ	九六・〇	二、八八三、九六四	二九三、九七一		
計	三七、八七〇・九	—	九、一六三、二六七		

(四)園藝農産物

	作付段別	收穫高	昭和十一年價額
エンドウ	六九・四町	六、三八四度	一二、〇七三円
ソラマメ	二、三六・一	三三、三三二	三四〇、二四五

蔬菜	ウド	一八・二	四九、四七六貫	八、八七五	
	イチゴ	二三五・六	一三九、四九六	九七、八〇三	
	インゲンマメ	三〇八・九	二、五一六石	四九、六六〇	
	サヤゲ	八九〇・二	七、〇〇一	二三五、〇五九	
	キウリ	七七九・四	二、八七二、二七八貫	二九七、六五三	
	シロウリ	四三四・七	一、四一四、一五五	一八八、五三〇	
	カボチヤ	七七九・二	三、三七二、八八二	四五一、八四一	
	スイカ	一、七八七・一	八、二三五、一九〇	一、〇一〇、六三八	
	マクワウリ	二〇四・三	六二一、八九七	一〇一、五三五	
	ナス	九九三・七	三、五〇九、三八八	三六六、八五六	
	トマト	三五六・六	一、六七〇、八五六	二〇一、三三一	
菜		二七・一	一二一、九七二	八、一三九	
	トウガン	七一八・五	一、九五八・七九六	二六九、二二七	
	ラツケウ	五二二・三	七〇五・九一六	三〇八、七五六	
	ミツバ	二、七四五・三	一三、四四七、二七六	一、〇二四・二五五	

キリボシダイコン	一	三四三・七	四九、七六三	一、九、八七二	一〇	
カブラ		四九四・五	一、三六、九三八	一〇四、七七五		
ニンジン		五八七・四	一、三七八、一六二	一、九二、九五七		
ゴボウ		四、四一〇・九	一、八九一、一三〇	二九五、三三二		
サトイモ		三〇八・七	二、三一五、五三七	一、四六九、七七一		
レンコン		一、八五八・五	一、〇四四、五〇四	二九四、一二一		
ネギ		二二四・七	六、五三〇、八四二	九四〇、九七一		
タマネギ		一六一・八	七七二、四三〇	一〇七、〇七八		
キャベージ		一、五一一・〇	五九九、五九七	六〇、五八〇		
ツケナ		四、一〇七・五	六、二五七、〇六八 斤	七五五、六〇五		
ラッカセイ		五〇五・四	二、三九、三四〇 貫	一、二五七、七七九		
シャウガ		一九・一	一、二九三、〇五四	三四五、九八一		
ショクヨウユリ		三八・一	二九、五二四	一〇、四五三		
トウガラシ		二一・五	一五、八七五	一二、一六四		
ジネンジョ			五三、八三一	二三、二八三		

クワキ		二五三	四六七			
ホーレンソウ		三二三、三六四	一、九一五、六三三			
其他ノ計		三四、〇〇四	—			
計		二、二九、八一〇	—			
花卉合計		二三五、一一七	—			
		二、三七五、九二七	—			

(五) 工藝農産物

	作付段別 町	收穫高 石	價額 円
タバコ	一、七六七・〇	一九、二四六	五六六、五三三
ゴマ	二一七・八	一、六二五	三三、四五六
カラムシ	六八〇・一	二九六、一〇一 貫	七五八、一二八
タバコ	四八・〇	九、八八三	八、九〇八
ワタ	二七・九	五二、六〇一	二四、一一六
シチトウキ	七七・一	二九〇、六八五	一三九、〇六一
コンニャクイモ	五四九・六	—	一七〇、一二五
其他ノ計	三、三六七・五	—	一、五〇〇、三二七

(六) 果實

	推計栽培段別	收穫高	價額
梅	三九・三 町	二〇一・六一 石	二〇一、三三〇 円
桃	二八〇・七	四三〇・〇六二 貫	一五二、五四〇
梨	五六・三	一、七三二・二四	四六三、九三六
生	五三・九	一、七六九、五一六	二〇四、四六一
干	—	八六、五三九	三二、九三八
枇	二五〇・九	五一三、九四五	四一六、二四七
葡	五四・四	二八、二三四	三三、六三七
李	四九・七	七五、七八七	一四、一一五
蜜	三一四・三	五〇二、七四一	二八、三八一
オレンジ	一六・六	二〇、八〇六	七、五八七
柑	一〇五・三	一八五、二三四	四一、八三六
夏橙	一一四・六	一九六、一九〇	二八、五一七
其ノ他ノ柑橘類	七一・八	—	一七、三三四
計ノ他	二、七〇八・八	—	一、七四二、八六九

一〇 蠶絲

昭和十一年ニ於ケル蠶絲總生産額ハ千三十七萬八千六百四十圓ニシテ内蠶繭ハ九百八十二萬五千六百一圓ニ上リ其ノ大部ヲ占メ以下蠶絲類ノ三十萬千二十七圓、蠶種ノ二十四萬八千五百四十九圓、眞綿ノ三千四百六十三圓等ナリ。

	昭和十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年
養蠶戸數	三四、九二九	三五、三八九	三七、〇七九	三八、二五五	三七、五一七
繭 掃立數量	三、九二六、三三八 瓦	三、九三三、九五八	四、〇四七、三八七	四、六二一、六七二	四、三五二、九二三
繭 收繭高	二、一二四、五四四 貫	二、〇〇六、七六二	二、一〇八、〇五〇	二、一〇三、一七四	二、〇九四、三六一
繭 價額	九、八三五、六〇一 円	八、五九一、六四六	四、六八一、四四五	一〇、六八九、八〇八	六、四五五、五九三
蠶種價額	二四八、五四九 円	二七九、一一五	三〇八、一〇一	三九九、五四五	二三三、八四一
蠶絲類價額	三〇一、〇二七 円	四二三、八五八	二三四、五八八	三五七、五〇一	五〇二、一九七
眞綿價額	三、四六三 円	三、五三五	二、三三〇	二、六七二	二、三一六
價額計	一〇、三七八、六四〇 円	九、二九八、一五四	五、三六、五五四	一一、四四九、五二六	七、一九四、一四七

一一 畜産

昭和十一年ニ於ケル本縣ノ畜産物總價額ハ八百五十二萬八千四百七十八圓ヲ算シ其ノ最モ主ナルモノハ家禽及卵ニシテ四百九十九萬四千八百六十圓ヲ産シ全國道府縣中第三位ヲ占ムルノ盛況ナリ。其ノ他ニアリテハ屠肉ノ百五十七萬八千九百九十九圓、牛乳ノ百三十二萬七千五十六圓等ナリ。

(一) 家畜 (各年末現在)

		昭和十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年
牛	飼養戸數	三九、八九四	三八、五〇七	三七、三三二	三五、八九五	三四、七九七
	飼養頭數	四七、八七七	四五、八九九	四三、九二五	四一、六三一	四〇、二三八
馬	飼養戸數	二四、六〇六	二五、七四二	二六、六七五	二七、六五六	二八、五六一
	飼養頭數	二五、六六六	二六、六九八	二七、五三一	二八、五〇四	二九、四四一
豚	飼養戸數	三〇、四三四	二九、一六二	二八、〇八一	二七、二五〇	二七、三六七
	飼養頭數	五五、六四四	五二、八八〇	五一、〇七〇	四八、八六七	五〇、四〇三
山羊	飼養戸數	二、〇六八	一、七一〇	一、四二四	一、二一六	一、〇一〇
	飼養頭數	二、六三七	二、一九一	一、八二〇	一、五二四	一、二五七
綿羊	飼養戸數	一三五	一〇三	七二	五〇	四七
	飼養頭數	二四一	一三三	二三八	二二五	一八四

(二) 家禽

	飼養戸數	飼養羽數	價額	産卵 個數	産卵 價額
鶏	二、一二三	二、一四三、五三三	一、一三五、八九一	一六六、七九一、一三〇	五、八五八、九六九
鶩	八九、六八四	一九、六八四	二一、五〇九	七六四、三一〇	一七、六一九
計	二五、四四三		一、一四三、四二二円	一六六、〇二六、八一〇個	三、八四一、三五〇円

	鷄	鶩	計
同十年	二、一六七、一一五	一、〇六一、〇六四	一七四、四三八、九七五
	二、一九二、三五〇	一、〇七三、七〇五	一七五、二三一、七五五
	二、三〇六、三六一	一、〇六二、二五四	一七三、三八〇、四七五
同九年	二、三三六、七七一	一、〇七六、三〇六	一七四、二四〇、四一五
	二、一九六、七四二	九七三、八七七	一七三、三八一、二〇五
同八年	二、二三六、三一八	九八七、〇八二	一七四、〇三五、二八五
	二、四九一、六七二	九八〇、三四七	一七九、四〇〇、二三〇
同七年	二、四六四、九五二	一一、五一五	六七四、八八五
	二、四九一、八六二	九九一、八六二	二〇〇、〇七五、二一五

	鷄	鶩	計
同十年	三、五一九、二〇六	一六、二九八	三、五三五、五〇四
	三、四六〇、〇五二	一七、七三二	三、四七七、七八四
同九年	三、二四六、八四六	二、三三三	三、二九九、一六九
	三、一九六、六七七	二、四九四	三、一〇八、一七一

(三) 屠殺

	成牛 頭數	成牛 肉量 貫	成牛 價額 円	犢 頭數	犢 肉量 貫	犢 價額 円	馬 頭數	馬 肉量 貫	馬 價額 円	豚 頭數	豚 肉量 貫	豚 價額 円
昭和十一年	七四六	三九、八八五	一〇一、二六〇	四一	四一七	七三六	七五三	二七、一三五	三八、一六七	五四、四四三	六七一、一三一	一、四三八、七八四
同十年	五六六	三〇、九〇五	七七、四七七	二四	二三〇	四〇四	三〇七	一一、八九九	一三、九二三	四五、七一四	五五五、四五三	一、一八七、五六九
同九年	五五一	二八、六一八	六九、二三五	三四	三二八	四一三	三一〇	一一、六三五	一一、八九五	三八、五五一	四一、六八三	一、〇七三、五八九
同八年	七三七	三七、八四八	八二、〇九一	六一	五〇九	七五一	二九三	一一、〇九三	一一、八二一	三八、五五一	四六八、二六一	九三六、八七七
同七年	八六一	三七、七六二	八一、三六七	五四	四九一	六四六	二四〇	七、九二六	七、五七一	四四、五六四	五〇六、八三一	七九九、八九九

其ノ他價額 円	三一	五	三八	五	一一
價額計 円	一、三七八、九九九	一、二七九、三八八	一、一五五、一五九	一、〇三一、五四六	八八九、四九五

(四) 牛乳

搾乳場數	二、三五三	二、二三四	二、〇四二	一、七二六	一、八五八
乳牛頭數	五、三六〇	五、三一四	四、九四二	四、四二三	四、三七六
搾乳高 石	八五、五八七	八〇、四六七	六八、九八七	五九、四〇二	五八、八二八
價額 円	一、三二七、〇三六	一、一五一、一三二	九七七、二七〇	八三二、七三四	七二三、七三八

一二 林産

昭和十一年ニ於ケル本縣林産物總價額ハ四百五十七萬七千百三十四圓ニシテ用材ノ百三十八萬八千三百八十三圓ヲ最多トシ木炭ノ百一萬三千五百四十七圓、薪ノ七十二萬七千八百七十九圓等之ニ次ゲリ。

(一) 公私有林伐採

		昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
用材	面積 町	九四四・八	七六四・八	八四六・二	六七六・一	六一七・一
	材積 石	四一三、二四四	三五一、六四一	三八五、六五四	二八六、〇八六	三二四、一一六
	價額 円	一、三八八、三八三	一、〇八八、四二五	一、一〇六、六一七	八三八、八五九	八八〇、三〇二
薪炭材	面積 町	二、八四七・五	二、五七五・三	二、五〇一・二	二、二八七・九	二、一九三・七
	材積 棚	一四四、八三七	一三七、三七三	一三七、八八六	一三〇、五七九	一二四、五六二
	價額 円	八八七、二九八	七六五、一八七	七四〇、八〇八	七〇六、二六八	六三五、四一九
竹材	面積 町	四三七・七	四四三・八	四四七・五	三六〇・六	三二八・五
	材積 束	三三一、八四九	二九三、九九四	二八八、四四五	二六二、九一八	二六二、六二六
	價額 円	二一〇、六四四	八八、一〇三	八二、五四二	八八、九九九	六三、六七〇

	價額計 円	二、三八六、三三五	一、九四一、七一五	一、九二九、九六七	一、六二四、一二六	一、五七九、三九一
(二) 薪炭			(昭和十一年)			
		數量			價額	
薪	松	八、五〇一、五二〇 東			四八二、一九二 円	
	檜	一、〇五〇、五四〇			七三、六八四	
	楢	六七四、二六九			五三、七五六	
	其他	一、八一七、一四九			一一八、二四七	
	計	三、〇四四、四七八			七二七、八七九	
木炭	白炭	一一四、八八四 貫			二六、九一六	
	黒炭	五、〇八六、二四三			九八六、六三一	
	計	五、二〇一、二二七			一、〇一三、五四七	

一三 鑛産

昭和十一年ニ於ケル鑛産物總價額ハ七十六萬九千二十五圓ニシテ石材ノ四十九萬一千三百五十一圓、土石類ノ二十二萬五千二百六十六圓、天然瓦斯ノ五萬二千四百八圓ヲ産スルニ過ギズ。

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
石材	四九一、三五一 円	四七七、一〇一 円	四三六、六二四 円	三八二、五七三 円	二七二、七三六 円
土石類	二二五、二六六	二〇〇、二二一	二〇一、一五五	一九六、七二四	一七三、九八六
天然瓦斯	五二、四〇八	?	?	?	?
計	七六九、〇二五	六七七、四二二	六二七、七七九	五七九、二〇七	四四六、七二二

一四　水　産

昭和十一年ニ於ケル本縣ノ水産物總價額ハ三千二十四萬二千三百三十四圓ヲ算シ全國道府縣中第三位ヲ占メ就中漁獲物ハ千六百五十一萬八千四百八十六圓ニ上リ、總額ノ五割五分ニ當リ内遠洋漁獲物ハ最モ多ク八百八十六萬九千三百五十一圓ニシテ沿岸漁獲物ノ六百十萬三千四百五圓之ニ次ギ、養殖ハ内灣ニ於ケル紫菜及貝類ヲ主トシ百五十四萬五千六百八十五圓ナリ、製造物ハ千三百七十二萬三千八百九十三圓ニシテ總額ノ四割五分ニ當レリ。

(一)　水産物總價額

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
沿岸漁獲物	六、一〇三、四〇五円	五、一四四、四七六円	五、一五五、一三七円	四、九〇五、二九九円	四、四四六、七八一円
遠洋漁獲物	八、八六九、三五一	六、八九二、七七六	六、〇〇五、一三三	五、八三二、一〇五	四、六五三、一一九
水産養殖	一、五四五、六八五	一、四一七、九一一	一、一四六、八七三	一、一八〇、一三八	九九〇、五三四
計	一六、五一八、四四一	一三、四七五、一四四	一二、四〇七、二四三	一二、九一七、六四二	一〇、〇九〇、四三四
水産製造物	一三、七三三、八九三	一〇、〇五六、一八七	七、〇三三、六一四	七、〇三三、三三五	四、八七〇、五三一
合計	三〇、二四二、三三四	二三、五三一、三三一	二〇、〇一〇、八五七	一八、九四〇、八六七	一四、九六〇、九六五

（水産製造物ニハ製鹽ヲ含ム）

(二)　總漁獲物

（沿岸、遠洋、養殖）

魚類	數量	價額
	昭和十一年	昭和十一年
イワシ	六九、五三〇、七一七貫	六、一七一、五四五円
カツオ	三五五、二八八	二八七、八八四
サバ	四、〇五八、〇九一	一、一六五、五八六
マグロ	五八六、五四九	八六八、八〇九
タヒ	一六七、二五九	五四三、五六九
ブリ	四六四、七五八	四七七、一一八
カレヒ、ヒラメ	三〇一、七三六	五三一、六六七
アヂ	四〇五、一二三	三五一、五〇八
サンマ	一、二九六、〇三四	四三四、八五一
イナダ	一八九、九五四	一六五、五〇一
ウギ	五一、二八一	一三八、五二四
ドウ	七四、五〇七	六五、九九二
其ノ他	一、六六三、三七〇	五〇〇、四一八

		數量	價額
貝類	アワビ	七九、一四四、六六六	二、八〇二、九七二
	ハマグリ	七六、三四四	二五五、〇〇九
	アサリ	一、七四六、四九六	二三〇、八九五
	アカガヒ	三、八五六、四四〇	二〇六、六六〇
	サザエ	二八、九一六	一三四、六五〇
	其ノ他	一七、四五六	六二、三〇八
計		五二、六七〇	三三、一二四
其ノ他水産動物	タイ	六、一三二、三三三	九二三、六四六
	コイ	八八、六六四	八六、一四七
	ヒメ	八六、四二〇	九二、一六九
	ヒエ	七二、三〇四	四二三、八二三
	セイ	二二、〇八四	八七、七八七
	其ノ他	一三七、三五九	五九、四六九
計		四〇六、八三一	七三八、三九五

		數量	價額
藻類	テングサ	二三九、五六八	一〇二、四六六
	ワカメ	二三八、六五三	二五、〇五一
	アマノリ	一、〇八一、九三六	九五九、一二二
	カジメ	一、八八四、一七四	二四、〇〇六
	其ノ他	三、〇三二、二九四	一八八、五一五
計		六、四五六、六二五	一、二九九、一五五
合計		九二、一三〇、四四四	一四、七五三、一六八
(三)水産製造物			
節類	鰹節	二、六四一	三九八、六五五
	鮪節	三、六四一	一〇、九六四
	鯖節	二九八、六五五	四二、二八九
	其ノ他	—	二〇、一八八

燻乾	鹽藏	其鰯	ノ	他	三九、六四六	八〇、九三四
	煮乾	其鰯	ノ	他	二、三八七	一〇、六九七
	鹽乾	其鯖	ノ	他	三〇、七八七	一三、〇六五
		鯖	刀魚		—	五三、六八九
		秋鰯			一、四八二、二五九	四〇八、〇六五
		鯵			二四〇、三一一	一〇二、六二八
		鯖			九、二九五	七、八七六
		其他			二三五、五一八	一〇〇、四九六
	乾	田作			—	四、〇五二
		鰯			二、三四、一五六	一、三二五、六八五
		鱗布			—	二、五六六
		和鱗			一、〇〇〇	四〇〇
		其他			—	一三〇
					—	四二五

雜類	味淋	乾佃	海苔煮	蒲鉾及竹輪	其他	計	一、三七、一八九	三〇二、〇三五
	乾海苔						一、七五九、六九六	六四、四七〇
肥料	鰯	干	其他	計	搾粕	鰯	他	一六五、六四九
	魚貝製其合計	油	灰	鹽	他	計	三、五一九、〇三九	四、三七〇、一七二
							一三、〇二六、六三二	六四〇、四一五
							二、七〇三、四五六	一三二、三六二
							—	五、一四一、九四九
							—	二、一〇七、〇二九
							七六二、四七六	三三、〇六七
							—	二九、七一〇
							—	五六、九五四
							—	一三、六九四、一八三

一五 工　産

昭和十一年ニ於ケル本縣ノ工産物ハ著シキ進展ヲ示シ總價額一億一千八百三十六萬一千八百三圓ニ達シ總生産額ノ四二・二三%ヲ占ムルニ至レリ而シテ其ノ主ナルモノハ醤油ノ二千九百二十七萬六千八百六十圓ヲ最多トシ、之ニ次ゲルハ麥粉ノ千二十八萬四千五百五十三圓酒類ノ八百九十一萬一千九百二十九圓、乳肉製品及罐詰ノ四百八十七萬四千五十九圓木製品ノ四百五十七萬四千百九十三圓、澱粉ノ三百二萬九千百六十圓、藁製品ノ百二十二萬五千七百五十四圓等ナリ。

(一) 工　場

職工五人以上使用スル工場數六百三十六、其ノ從業員一萬五千三百二十六人ニシテ、內原動機ヲ使用スル工場四百六十五ヲ算シ、蒸汽機關百一、瓦斯機關九、石油機關九十九、電動機二千三百四十八、日本形水車一ヲ有セリ。

	工場數	從業者	生産額
昭和十一年	六三六	一五、三二六	一一〇、九四三、二九一円
同十年	六〇八	一四、一〇六	九七、一〇九、九五〇
同九年	五九三	一三、一五六	八四、七七三、八二九
同八年	五七四	一二、八九四	七一、一九四、八二一
同七年	五九〇	一一、八八一	六〇、五七三、八九二

(二) 醤　油

	醸造場數	石數	價額
昭和十一年	三四九	八三一、三〇三石	二九、二六六、八六〇円
同十年	三六五	七八四、七二四	二五、二八〇、〇三三
同九年	三七〇	八三一、〇二一	二四、六八六、八二一
同八年	三七七	六二三、八三〇	一八、六〇四、四五七
同七年	三八七	七〇七、七〇五	二〇、八八五、〇九八

(三) 酒　類

	醸造場數	石數	見積價額
昭和十一年	一四一	一〇二、八七六石	八、九二一、九二九円

同十一年	一四三	九四、八六四						八、〇〇七、三三九			
同九年	一四九	九七、七三三						八、一四一、〇三六			
同八年	一五九	九七、三一四						八、二七九、四〇五			
同七年	一六三	八三、一三六						七、一五一、六五六			
(四) 織物											
		絹及絹綿交織物		毛及毛交織物		計					
昭和十一年	九三、一〇六円	一四三、二四四円		二五五、四五九円		一、三〇九、八〇九円					
同十年	八七四、六六二	一三八、九八七		二四八、〇五四		一、二六一、七〇三					
同九年	七四七、五九六	一二八、六九一		二六七、二六九		一、一四三、五五六					
同八年	五三四、二八一	一一六、六九八		二三五、三〇三		九八六、二八二					
同七年	五六〇、五四二	一三一、八三二		八七一、五三八		一、五五三、九二一					
(五) 澱粉											
	製造場數	數量		價額							
昭和十一年	一六九	三八、三六九、七二一斤		三、〇二九、一六〇円							
同十年	一六三	三五、三八、四一五		二、五二一、二五二							
同九年	一五六	三二、二七三、八六六		一、三七三、八五七							
同八年	一五九	二三、〇九三、〇六一		一、五〇七、九八六							
同七年	一六三	一八、三五六、五二〇		一、〇一五、五七八							
(六) 其ノ他ノ主ナル工産物											
	製造戸數	數量		價額							
		(昭和十一年)									
酢及味噌	二七二	—		九三三、〇三三円							
乳肉製品及罐詰製茶	六一	—		四、八七四、〇五九							
麥粉	二五、一一九	八四、一二五貫		三〇九、七五二							
漬物	一五	八八、七四一、九七六斤		一〇、一八四、五五三							
麺類	九九六	六三〇、二〇六貫		二八六、〇四五							
植物油及油粕	五五	三八三、三五九		三一四、六三九							
工業用藥品	七六	—		四三四、一三一							
木製品	三	—		一、一〇一、〇三七							
藁製品	二、四六八	—		四、五七四、一九五							
竹製品	三三、五〇八	—		一、三三五、七五四							
籐製品	一、八一七	—		二五九、七九五							
	二七五	—		三一六、七九一							

一六　會　社

昭和十一年末現在ニ於ケル本縣內會社數ハ九百三十四ニシテ之ヲ營業別ニ分テバ農業六十九、水產業十四、鑛業五、工業二百三十六、商業四百四十六、運輸業百五十二ナリ。

而シテ資本金及出資額一億二千百二十四萬千二百九十六圓、內拂込資金及出資額九千八百三十一萬九千三百四十八圓ニシテ、積立金一千百十三萬四千九百九圓ニ及ベリ。

（各年末現在）

	會社數	公稱資本金及出資額	拂込資本金及出資額	積立金
昭和十一年	九二四	三三、二四一、二九六円	九八、三二九、三四八円	二、一三四、九〇九円
同　十　年	九三三	三三、八三五、三七五	九五、六一八、八四八	九、八五九、一〇一
同　九　年	八九六	二七、一〇四、一〇三	九三、五五九、八一四	九、四三三、九二九
同　八　年	八四九	二七、三七五、一九五	九三、一三四、〇二七	九、〇六五、六一三
同　七　年	八三一	二六、三九四、五三〇	九三、一五八、五〇〇	八、三一六、一〇五

一七　銀　行

昭和十一年末現在ニ於ケル本縣內銀行數ハ普通銀行五、其ノ支店數五十一、其ノ資本金千二百七十七萬圓ニシテ積立金三百二十三萬八千四十二圓、預金一億千九百十六萬三百二十九圓、貸付金四千九百二十九萬三千八百六十三圓ニ達シ外ニ縣外銀行支店九及日本勸業銀行支店一ヲ有セリ。

（一）普通銀行

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
行數	五	五	五	五	五
資本金（總額）	二三、七七〇、〇〇〇円	二三、七七〇、〇〇〇円	二三、七七〇、〇〇〇円	二三、七七〇、〇〇〇円	二三、七七〇、〇〇〇円
資本金（拂込額）	六、六五〇、〇〇〇	六、六五〇、三二〇	六、六五〇、三二〇	六、六四三、一二〇	六、六四三、一二〇
積立金	三、一三八、〇四二	三、一三三、一三一	三、〇〇五、〇二九	二、八五七、七六九	二、七一七、一三五
預金（總額）	六一五、三九八、八七四	三八三、一一九、〇〇五	三四三、三六九、六九七	三三九、八八四、四一八	二九五、〇七七、五六四
預金（下期末現在）	一一九、一六〇、三三九	一〇八、六三一、六一〇	一〇〇、五四一、七二四	一〇四、一二五、三六六	八九、一四五、八七〇

貸付金（下期末現在）	總額	三四、八〇一、二七二	一三八、一二四、七三〇	一二六、五四四、七七五	一四三、八三三、一一五	一四八、六二一、四一七	二九、〇三九、一九〇	二八、五一六、一二六三	二八、九七四、九四〇	二八、四九六、二九三	二八、〇三九、一九〇
		四九、二九三、八六三	四六、八四八、八八一	四四、三八七、一九九	四六、〇五九、九八九	四九、八四九、五三三	二七、七〇三、七五六	二七、一八一、二六六	二七、六八三、四八二	二七、〇四六、四八八	二七、七〇三、七五六

（二）日本勸業銀行千葉支店

		昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
預金（下期末現在）	總額	三、六五七、〇六三円	三、四九六、〇八八円	三、七二六、八七八円	三、一六三、三四一円	三、一八二、五八九円
		一、九九三、九二三	二、〇二六、六七五	一、八二五、一五七	一、八一四、〇三一	一、九三六、〇三〇
貸付金（下期末現在）	總額	二七、四八七、五四四	二八、五一六、一二六三	二八、九七四、九四〇	二八、四九六、二九三	二九、〇三九、一九〇
		二五、八〇一、二六四	二七、一八一、二六六	二七、六八三、四八二	二七、〇四六、四八八	二七、七〇三、七五六

昭和十一年末現在ニ於ケル貯蓄銀行ハ本店一、支店十六ニシテ內縣外銀行支店六ニシテ其ノ貯金人員十萬四百十一人、金額ハ二千九百四十九萬千七百二十四圓ニ上リ郵便貯金ハ其ノ人員八十一萬千七百四十一人、金額六千三百十八萬千百三十六圓其ノ他產業組合、各種組合ノ團體貯蓄人員二十八萬六千三百七人、金額千三百七十一萬三千七百三十六圓ニシテ貯蓄總額ハ一億六百三十八萬六千五百九十六圓ニ達シ現在人口一ニ對シ七十圓六錢ニ當レリ。

（一）銀行貯金（單位金額圓）各下期末現在

		昭和十一年		同十年		同九年		同八年		同七年	
銀行數	本支店	一六		一六		一六		一六		一五	
普通貯金	人員	四五、三〇三		五七、二五〇		五六、四九〇		七一、九九六		七九、五八七	
	金額	三、四三七、〇九一		五、一六九、二四六		五、一〇九、二六八		五、七九九、五一三		五、九六九、〇二一	
定期貯金	人員	四六、九〇三		四九、五〇三		四八、四五七		四六、三八三		四一、七八五	
	金額	一三、九二三、一八四		一三、六七一、〇一七		一二、九四六、〇七二		一〇、五七二、〇二四		一〇、一〇四、四六四	

其ノ他貯金	人員	一三、一三一、四四九	八、一〇五	一三、六三一、四一〇	一〇、四二七、九九五	八、八七〇	一三、四九七、〇一三	一一六、九四一	六、八二九
	金額							三一、三三七、二七六	九、六三一、一四九
計	人員	二九、四九一、七二四	一〇〇、四一一	二九、七八六、七三〇	二六、七八九、五三一	一二七、二四九		二三、六九四、六三三	一二八、一〇一
	金額								
貯金者一人當金額		二九三・七一円		二五八・六三円	二一〇・五三円		二七六・五三円		一八四・八二円

(二) 郵便貯金 (單位金額圓)

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
取扱局所	二三一	二三三	二一八	二一〇	二〇八
預入金額	三八、九四、三六六	三二、五九二、五二四	二九、二七四、二五七	二八、七三二、四二六	二五、八五一、八九八
拂戻金額	三二、七二一、七二四	二八、八四二、三二九	二七、四八一、四三七	二五、六九二、五四一	二七、〇五八、二六六
年度末現在人員	八二一、七四一	七七一、一六一	七三二、〇三五	七〇一、一二四	七六二、五三二
年度末現在金額	六三、一八一、一三六	五六、八五一、九五五	五三、一〇四、四六五	五一、二七〇、一五六	四八、一八一、九〇三
預入者一人當	七七・八三円	七三・七一円	七二・五五円	七三・一一円	七一・六四円

(三) 團體貯蓄

(各年度末現在)

	團體數	團體員數	貯蓄高	團體員一人當金額
昭和十一年	七、二七七	二八六、三〇七	一三、七二三、七三六円	四七・九〇円
同十年	七、〇八八	二七一、四四五	一二、六六一、三二七	四五・一七
同九年	六、三九三	二六二、八一八	一一、六八四、五二一	四四・四六
同八年	五、一〇九	二四四、九六八	一一、一三八、三〇八	四五・四七
同七年	四、三五三	二三二、一二七	一〇、三〇六、四六六	四四・三七

(備考) 本表ニハ産業組合其ノ他各種團體ノ貯蓄高ヲ計上セルモノナリ。

産業組合ハ昭和十一年末ニ於テ事業未開始ノ組合ヲ除キ其ノ數三百三十一、組合員十二萬千六百四人、運轉資金二千三百四十七萬二千九百八十六圓ニシテ年度末現在貸付金千二百十七萬千八百十八圓、貯金千四百五十七萬八千二百十五圓、販賣額九百九十萬九百八十一圓、購買額三百七十六萬九千六十圓、利用額九萬九千七百七十五圓ニ達セリ。

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
組合數	三三一	三〇四	三〇三	二九八	三〇五
組合員數	一二一、六〇四	一〇七、三四二	一〇一、一九〇	九八、九一八	九九、一〇三
運轉資金	二三、四七二、九八六円	二一、五六八、一九一円	二〇、四三一、二〇五円	一九、四五〇、五二三円	一八、三七〇、八七四円
事業 貸付金	二三、一七一、八一八	二三、二四一、一九六	二三、三九三、一七六	二三、一三五、二四〇	二三、〇三九、六〇二
事業 貯金	一四、五七八、三二五	二二、三〇四、四一四	二一、二三五、七八三	一〇、四三二、八四五	九、四六一、四〇一
事業 販賣額	九、九〇〇、九八一	七、四一四、八三三	五、八〇二、〇一三	四、九二六、四五七	三、六四二、八五六
事業 購買額	三、七六九、〇六〇	三、六〇〇、二八六	二、七二一、九四三	一、七七〇、四七七	一、五〇六、三一三
事業 利用額	九九、七五五	九九、四九九	八七、五四四	五五、一七四	五八、九四七

二〇 道路

本縣ノ道路ハ昭和十年十二月末日現在國道四路線、六十三粁、縣道三百十二路線、二千六百三十五粁、市道二千百九十五路線、六百二十五粁、町村道五萬三千三百二十九路線一萬六千百七十八粁、總粁程一萬九千五百一粁、面積一方粁ニ付三・八五粁ニ當レリ。

	線路數	粁數	面積一方粁ニ付粁數
國道	四	六三粁	〇・〇一粁
縣道	三一二	二、六三五	〇・五二一
市道	二、一九五	六二五	〇・一一
町村道	五三、三二九	一六、一七八	三・二〇
計	五五、八四〇	一九、五〇一	三・八五

二　鐵道及軌道

昭和十一年末現在ニ於ケル本縣內鐵道ハ國有鐵道總武、房總（東線西線）東金、常磐、成田、久留里、木原ノ七線延長五百十五粁七、地方鐵道野田、船橋、流山、銚子、小湊、成田、南總九十九里ノ八線百七十三粁一ヲ有シ合計十五線六百八十八粁八ニ及ビ管內ヲ環狀、縱橫ニ貫通シ、軌道ハ京成、成田電氣軌道ニシテ此ノ延長八十九粁七ニ達シ交通ノ便大ニ備ハレリ。

(一)　鐵　道（昭和十一年十二月末日現在）

		停車場數	粁數	粁數累計
國有鐵道	總武本線	二四	一〇五・九粁	一〇五・九粁
	房總 東線	三三	九三・六	一九九・五
	房總 西線	二六	一一九・四	三一八・九
	東金線	二	一三・八	三三二・七
	常磐線	五	一五・六	三四八・三
	成田線	一〇	一〇八・三	四五六・六
	久留里線	九	三二・二	四八八・八
	木原線	六	二六・九	五一五・七
	計	一二四	五一五・七	五一五・七
地方鐵道	成田鐵道線	三	四四・〇	四四・〇
	銚子鐵道線	五	六・四	五〇・四
	總武鐵道野田線	八	二〇・〇	七〇・四
	總武鐵道船橋線	六	一九・九	九〇・三
	流山鐵道線	一	五・七	九六・〇
	小湊鐵道線	一五	三九・一	一三五・一
	南總鐵道線	三	一二・二	一四七・三
	九十九里鐵道線	五	二五・八	一七三・一
	計	六四	一七三・一	—
合計		一七八	六八八・八	—
昭和十年		一七八	六八八・八	—

同九年	一、七六	六八〇・六	—	同七年	八五・四 新	五・六	八九・〇
同八年	一、四〇	六七六・〇	—	同八年	八二・九 新	五・〇	八八・九
同七年	一、四三	六七四・〇	—	同九年	八四・三 新	五・〇	八九・三
				同十年	八四・四 新	五・〇	八九・四

(二) 軌道

	原動力	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
京成電氣軌道	電力	八四・七 新	八四・四 新	八四・三 新	八二・九 新	八五・四 新
成田電氣軌道	電力	五・〇	五・〇	五・〇	五・〇	五・六
計	—	八九・七	八九・四	八九・三	八八・九	八九・〇

三、諸車

本縣ニ於ケル昭和十一年末現在ニ於テ二十三萬七百十八輛ヲ數ヘ、內自動車三千三百七輛、馬車六千百六十五輛、牛車一萬二千九百六十一輛、荷車二萬七千八百九十五輛、人力車四百十四輛自轉車十七萬九千九百七十六輛ナリ。(各年十二月末日現在)

		昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
自動車	普通	二、五九三	二、三〇〇	二、一五五	一、九〇〇	一、八三四
	其ノ他	七一四	六四八	四九六	一九〇	二七五
馬車	乘用	—	五	六	七	八
	荷積用	六、一六五	六、四七〇	六、八二三	六、七三二	七、〇四一
牛車		三、九六一	二、一九四	一〇、四八四	九、一九一	八、六八四
荷車		二七、八九五	三五、七五五	三二、三〇四	三九、〇九四	四〇、二二五
人力車		四一四	五一〇	五九七	六六八	七二三
自轉車		一九、九一六	一七、一七〇七	一六五、五五四	一六一、五四五	一六六、五八二
計		二三〇、七一八	二三四、六七九	二二八、四一八	二二九、三一七	二三五、三六二

二三　船舶

昭和十一年末現在ニ於ケル本縣内漁船數ハ一萬八千百四艘ニ上リ内五噸以上ノモノ千百四十一艘、五噸未滿ノモノ一萬五千四百九十一艘ニシテ、動力ヲ有スルモノハ二千四百九十九艘アリ亦荷船及客船ハ昭和十一年三月末現在ニ於テ六千二百三十九艘ヲ算シ、五噸以上ノモノ四百三十九艘、内客船八艘、荷船四百三十一艘ニシテ其ノ噸數五千六百七十一噸、五噸未滿ノ小船ハ五千八百艘ニシテ内艀船六百八十七艘、小廻船千三百九艘、遊船四百二十三艘、其他三千三百八十一艘ナリ。

(一)　漁船

(船數)　(各年十二月末日現在)

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
五噸以上 動力ヲ有スルモノ	一、〇二七	一、〇〇八	九八四	八一九	八一五
	二一四	二一〇	一九	二三五	二一七
五噸以上 動力ヲ有セザルモノ	一、一四一	一、二二八	一、一〇三	九四四	九四二
計	一、四七二	一、三三八	一、〇七五	一、〇三〇	九七六
五噸未滿 動力ヲ有スルモノ	一五、四九一	一五、六二〇	一五、四二八	一三、〇三四	一三、三一三
五噸未滿 動力ヲ有セザルモノ	一六、九六三	一六、九六八	一六、五〇三	一四、〇六四	一四、二八九
計	一八、一〇四	一八、〇九六	一七、六〇六	一五、〇〇八	一五、二三一

(二)　荷船及客船

(各年度末現在)

	昭和十一年	同十年	同九年	同八年	同七年
蒸汽船 噸數	—	—	—	三	八
蒸汽船 船數	—	—	—	二八	四一五
發動機付帆船 噸數	二五八	二四九	二三六	二五五	二一一
發動機付帆船 船數	三、九〇八	三、六六七	三、二二七	三、四〇〇	二、七四七
帆船 噸數	二四	二九	一六	五	七
帆船 船數	三六七	三三四	二〇二	七一	三二一
石積船 噸數	一四七	一七〇	二二八	二八五	三三二
石積船 船數	一、三九六	一、六〇二	二、一一六	二、六九九	三、一三一
五噸以上 計 噸數	四三九	四四八	四七〇	五四六	五四八
五噸以上 計 船數	五、六七一	五、六〇三	五、五五五	六、一九八	六、六一四
五噸未滿 有動力 船數	三一四	三一三	二一三	一五五	一五三
五噸未滿 有動力 船數	五、四八六	五、五六五	五、四九三	五、〇九三	五、二一二
五噸未滿 無動力 船數	五、八〇〇	五、八七八	五、七〇五	五、二四八	五、三六五
計 船數	六、二三九	六、三二六	六、一七五	五、七四	五、九一三
合計 船數					

(備考)　石積船ニ在リテハ十石ヲ以テ一噸ニ換算計上セリ。

二四　小學校

本縣ニ於ケル昭和十二年三月一日現在小學校總數四百三十四ニシテ平均一市町村一校三分一區强ニ當リ內尋常小學校六十九尋常高等小學校三百六十三高等小學校二アリ學齡兒童ノ就學始期既達者百人ニ付九十九人七分一厘ノ就學歩合ヲ示セリ。

		學校數	教員數	兒童數	教員一人ニ付兒童	就學歩合
昭和十一年度	尋常	四三四	四、七八七	二三三、七七一	四六・五三人	九九・七一%
	高等		九七九	三七、四一七	三八・二三	
同　十年度	尋常	四三〇	四、七〇七	二一〇、八三七	四六・九一	九九・七二
	高等		九七五	三五、九三九	三六・八六	
同　九年度	尋常	四三六	四、五八八	二一六、二六六	四七・一四	九九・七〇
	高等		九五四	三六、二六八	三八・〇二	
同　八年度	尋常	四三五	四、四八三	二一四、三四六	四七・八一	九九・七一
	高等		九二三	三五、二三三	三八・一七	
同　七年度	尋常	四三五	四、三九三	二一〇、四五六	四七・九一	九九・六七
	高等		八七三	三二、〇一七	三六・六八	

（備考）教員數ハ兼務者ヲ含ム

二五　諸學校（小學校ヲ除ク）

本縣ニ於ケル昭和十二年三月一日現在小學校以外ノ諸學校總數ハ五百十五ヲ算ヘ、內師範學校二、中學校十五、高等女學校二十三、實業學校（甲）二四、同（乙）一八、青年學校三百六十、青年學校教員養成所一、盲學校三、聾啞學校一、其ノ他各種學校六十八ナリ。

		學校數	教員數	生徒兒童數	入學者數	卒業者數	平均一學校經費（円）
師範學校	縣立	二	四三	七二九	二七一	二七一	七八、五一七
		△	△	△	△	△	
			二六	一、〇〇一	二一三	二一五	
中學校	縣立	三	三〇七	七、〇九四	一、七二三	一、三三八	四三、九八九
	其ノ他	三	五一	六六三	一四七	一〇八	二一、〇二三
高等女學校	縣立	一一	二〇三	四、九九八	一、三三七	一、〇六九	二五、五五二
	其ノ他	三	一五八	二、六九六	六四九	六四九	一四、二五〇
實業學校（甲）	縣立	一二	一六九	三、二〇一	一〇五	七四三	二五、四八七
	其ノ他	×	二	一、五一四	七六〇	四五〇	五三、三二六
實業學校（乙）	縣立	一三	四九	八八一	三一九	二九二	一二、九八六
	其ノ他	六	九二	一、九〇九	九三五	六三二	五七、六四二
		×					
		二					

青年學校（其ノ他	三六〇	二、七八六	五六、二〇四	二九、七九〇	一五、二〇四	一、四〇五	
青年學校教員養成所（縣立	一	八	—	—	—	—	
盲學校（縣立	一	五	三六	一〇	八	七、〇三四	
其ノ他	二	三	一五	二	七	一、五二五	
聾啞學校（縣立	一	五	三、九六一	五三	五	九、六四一	
各種學校（其ノ他	六八	二九三	一七、九九三	二、七七〇	一、九六一	八二九	
計（縣立	四五	八二六	六七、〇六二	三五、〇五三	三、八四一	二九、六六二	
其ノ他	四七三	三、四九四	一七、二三八	四、八六七	一九、〇二一	二、二二八	
昭和十年度（縣立	四四	八〇七	六九、六八五	六三、九五二	三、六七一	二九、四二四	
其ノ他	四七三	三、七三七	一六、三一一	四、四四〇	一九、三三六	一、一〇二	
同 九年度（縣立	四四	七六九	二九、〇四八	二〇、七八六	三、五五三	二八、一〇八	
其ノ他	四八〇	三、二五八	一五、一六二	一八、九五二	一三、一六〇	一、四三二	
同 八年度（縣立	四四	七四四	三八、五九四	四、二二〇	三、二八五	二七、六八八	
其ノ他	四七八	三、一〇三	一五、二六二	一八、九五二	三、八四二	一、三二六	
同 七年度（縣立	四二	七五六	七、八二五	四、〇八七	三、三五八	二九、五三七	
其ノ他	四七九	三、〇三二		一八、二六二	一二、二二〇	一、三二五	

（備考）教員數ハ兼務者ヲ含ム、△印ハ師範學校附屬學校附屬小學校ノ事實ヲ示ス、學校數欄ニ甲乙兩種ノモノアルニ依レ

×印ヲ附シタルモノアルハ一校內

二六 公學費

昭和十一年度管內公學費總額ハ八百三萬三千百七十五圓ニシテ內縣經濟ニ屬スルモノ百七十三萬五千八百五十八圓、市經濟ニ屬スルモノ八十五萬二千三百五十八圓、町村經濟ニ屬スルモノ五百四十四萬四千九百五十九圓ナリ。又公學費ニ屬スル收入總額三百四十二萬千五百十七圓ニシテ內縣經濟ニ係ルモノ二十六萬九千五百四十九圓、町村經濟ニ係ルモノ二百二十七萬千百二十八圓ナリ。

	昭和十一年度 支出	昭和十一年度 收入	同十年度 支出	同十年度 收入	同九年度 支出	同九年度 收入
小學校	五、五六六、二三八円	二、三四一、七三八円	五、三〇〇、八一九円	二、四二二、五六一円	五、二三三、九三四円	二、六四二、八四一円
師範學校	一五七、〇三四	四三、六〇二	二〇六、四七七	四四、三九一	一四二、〇二四	五三、七四四
中學校	五二七、八七三	三六七、五〇九	四九五、九四〇	三六三、〇六四	五二一、六一九	三三九、六四八
高等女學校	三三八、七三七	二八一、一八三	三二八、九四九	二六七、五〇三	三一三、七五〇	二四八、五三四
實業學校	四四六、二八二	二六〇、四七四	四七〇、八二五	二〇四、九六七	五八二、四六五	二三四、八二三

青年學校	四九八、二七四	八二、六六九	四二八、五八〇	七八、九六〇	一五五、六三三	三三、〇九九
聾啞學校	九、六四一	二、六〇〇	七、二五六	五二四	六、二六八	—
盲學校	七、〇三四	六五〇	六、三〇三	六三一	六、二三三	一、六六五
各種學校	—	八	—	七九	—	一六六
圖書館	三二、八一八	八五八	二〇、二二六	八三四	九〇、九六五	五七四
其ノ他	四四九、二四四	四二、三二六	四九三、五四三	三三、六二一	四五六、一八八	一五七、九〇三
計	八、〇三三、一七五	三、四二二、五一七	七、七五八、九一八	三、四一六、一三五	七、四九七、〇二八	三、六九一、九九七

二七 社寺・教會

昭和十一年末現在ニ於ケル本縣内神社總數ハ四千七百二十四ニシテ内官幣大社二、別格官幣社一、國幣中社一、縣社十四、鄕社八十六、村社二千六十六、無格社二千五百五十四ニシテ之ニ奉仕スル神職三百十人ナリ。

寺院ハ總數三千百五十八ニシテ宗派別ニ觀レバ眞言宗最モ多ク千二百二十五ヲ有シ、日蓮宗ノ八百五十五、天臺宗ノ四百二十七、曹洞宗ノ三百五十四等ノ順ニシテ他ハ遙カニ下リ黄檗宗ノ四ヲ最少トス、而シテ住職總數ハ二千百四人ナリ。

(一) 神社(社數、各年末現在)

	昭和十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年
官幣大社	二	二	二	二	二
別格官幣社	一	一	一	一	一
國幣中社	一	一	一	一	一

| | | |

(三) 神佛教務所及說教所(各年末現在)

	昭和十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年
神道	二五七	二五二	二四八	二四〇	二三二
佛教	四三	四一	四一	三八	三七

(四) 基督教布教者及會堂講義所(各年末現在)

	昭和十一年	同 十年	同 九年	同 八年	同 七年
布教者	三五	四一	四六	四六	四七
會堂講義所	四六	四七	四六	四六	四六

二八 衛生機關

昭和十一年末ニ於ケル本縣內醫師ハ千三百五十四人ニシテ內診療ニ從事スルモノ千二百六十六人、醫師一人ニ付人口千百九十九人ニ當リ、齒科醫師ハ四百六十三ニシテ診療ニ從事スルモノ四百三十四人人口三千四百九十九人ニ對シ一人ノ割合ナリ、藥劑師ハ三百八十六人ニシテ內藥務ニ從事スルモノ三百二十四人ナリ。

	醫師	齒科醫師	產婆	藥劑師
昭和十一年	一、三四四	四六三	一、一三	三八六
同 十年	一、二六七	四一四	一、一七六	三四七
同 九年	一、二三三	三八九	一、一五九	三一三
同 八年	一、一八二	三七八	一、一一九	三一六
同 七年	一、〇八〇	三三〇	一、〇五九	三〇一

二九　十種傳染病

昭和十一年中ニ於ケル本縣内ノ十種傳染病ハ、赤痢患者最モ多ク患者九百八十八名ヲ算ヘ、内死亡三百七十五名ニ及ビ之ニ次グハヂフテリヤ患者四百五十七名、内死亡五十九名、腸チブス患者四百十四名、内死亡五十九名、猩紅熱患者百六名、内死亡二名等ニシテ他ハ著シク少シ。

		昭和十年	同 九年	同 八年	同 七年
赤痢（疫痢ヲ含ム）	患者	九八八	七九六	七〇〇	五六四
	死亡	三七五	三三四	三〇〇	二三七
腸チブス	患者	四一四	四一三	四三三	三九四
	死亡	五九	七八	九九	七〇
痘瘡	患者	—	—	—	—
	死亡	—	—	—	—
猩紅熱	患者	一〇六	九五	一〇四	九六
	死亡	二	八	四	二
ヂフテリヤ	患者	四五七	四〇二	三八九	四二九
	死亡	五九	六六	八五	六五
パラチフス	患者	五七	四二	二五	七二
	死亡	七	二	三	五
流行性腦脊髓膜炎	患者	二	—	二	三
	死亡	二	—	一	二
計	患者	二、〇二六	一、七四七	一、六五三	一、七二〇
	死亡	五〇四	四八八	四八三	四七五

三〇 縣財政

本縣財政ハ十年前即チ昭和二年度ニ於テハ大正十二年關東大震災ニ因ル復興其他緊急施設ヲ要スルモノアリシタメ歳入千百六萬餘圓歳出千二十三萬餘圓ヲ算シタルモ其ノ後概シテ遞減ヲ續ケ昭和六年度ニ於テハ震災以前年度ノ財政ニ近ヅケリ。然ルニ昭和七年度ニハ内外ノ非常時ニ際會シ農村振興時局匡救ノ諸施設ヲ要スルコト急ナルモノアリ、更ニ昭和八年度ニ於テハ未曾有ノ旱害ヲ被リ其ノ應急施設等ノ爲急激ニ財政膨張シ昭和十一年度ニ於テハ歳入千六百三十五萬五千六十五圓歳出千三百六十七萬六千七百十九圓ニ達セリ。而シテ歳入中最モ主ナルモノハ稅收入ニシテ總額ノ三割三分ニ當リ歳出ニアリテハ教育費最モ多ク總額ノ九分ヲ占メ土木費勸業費警察費之ニ次ゲ尙國費支辨ニ屬スル廳費ハ大正十三年度ノ震災復舊ニ依ル急激ノ增加ヲ見タルモ漸次減少セリ然ルニ昭和七年度ノ救農諸事業ノ爲メ再ビ急增シ前年度ニ至リテ遙ニ減少ヲ示シタルモ本年度ニ至リテ稍々增額シ千二百八十八萬圓餘トナレリ。

(一) 歳入(單位圓) (決算額)

	昭和十一年度	同 十年度	同 九年度	同 八年度	同 七年度
一地租附加稅	二、〇三三、四七六	二、〇四七、一四二	二、〇二四、七一七	一、九六二、九八六	一、九五一、三二四
經常部					
特別地稅	三三二、六五三	三三五、五〇六	二二八、五〇二	二〇四、二八四	二二二、三三九
營業收益稅附加稅	三〇二、二六六	三七八、四五九	三四九、七七九	三一〇、〇六〇	三二七、〇五四
所得稅附加稅	三七一、八四五	三九九、六七九	三四八、八八九	三一七、〇六〇	三六六、四六一
鑛業稅附加稅	七九	二七	八五	二七	九
家屋稅	九〇四、八八八	八七九、二二一	八五〇、五六九	七七四、六三六	七七三、五五〇
營業稅	二〇七、四四四	二〇三、三二一	一九八、六九〇	二三六、五八三	二九五、九八九
雜種稅	一、三九二、五六六	一、二八三、五七七	一、一六四、二五一	一、〇一九、五四一	一、〇三二、八一三
財産收入	三、七〇〇	三、七二四	三、八二〇	三、六九〇	三、八八七
使用料及手數料	六四〇、九八七	六三三、二三七	五七七、三二三	五九四、七九三	六五四、〇四三
國庫下渡金	二三二、三二〇	一九〇、三三六	一九八、一九五	一九八、一九六	一六三、四八六
雜收入及其ノ他	一、〇〇五、〇四五	九〇一、一五五	七三〇、六五〇	七三二、一九六	六〇一、一五八
計	七、二八四、二五九	七、一二〇、四八八	六、六四七、六二一	六、三三三、一五一	六、一八一、一二三
臨時部					
繰越金	三、二二八、七二八	三、〇四三、六七六	二、〇二八、一三八	二、〇一八、一〇九	一、六九九、七九四
國庫補助金	九五一、一〇六	一、〇四四、七二四	二六五、八〇七	二、六一五、三三四	二、八三五、〇〇〇
寄附金	三九七、〇四六	二六五、八〇七	四〇六、一九七	四〇六、一九七	二、〇三四、一〇〇
縣債	四、二二四、六〇〇	一、七三五、九〇〇	二、〇三四、一〇〇	五一八、六六五	四九六、九四八
其ノ他	三七九、三二六	五二四、〇一七	五一八、六六五		

| | | |

勸業費	一六八、九〇八	二九八、八五七	三〇六、五六五	四三、一二四	
勸業補助費	八五、六〇五	七六、五六〇	七五、八三五	六五、四三五	
教育費	二六、二六五	二七、一三一	七六、八〇九	六一、八六八	
教育補助費	一〇七、三七〇	一〇三、八二三	八六、〇八九	七八、七二五	
衞生補助費	四六、八八二	四二、三三四	四二、三三三	四二、六八九	
耕地整理及開墾奬勵補助費	一七、二七八	一九、七九二	二七、九六一	五四、六八一	
招魂祭補助費	—	—	二四〇	二六七	
神社及神職會補助費	四七六	四七六	四七六	六八〇	
協會補助費	九六四	九六四	九六四	九六四	
在鄉軍人會補助費	九六四	一七、四三三	一三、九六四	一四、九二〇	
統計補助費	一四、四一〇	六、六七七	六、四九九	六、六二八	
農業水利調査費	五、〇六六	三一三、四五二	二一七、八六七	八六、三〇一	
農業水利改良費本年度支出額	八九、四八九	三三〇、五五八	二六六、四四三	二八八、〇八七	
繰入金	二八五、三六九	八二〇、五一八	五七二、九五五	五三七、八八四	
縣債費	三、〇三〇、四二二	—	—	六四、四四四	
產業振興土木事業費	—	—	—	—	
漁港修築費	—	—	一七、二〇三	二三、一一六	

部

貸付金	—	—	—	—	五二、〇七一
農村振興町村土木補助費	—	—	三七六、七二一	一、〇五七、七九五	一、〇八〇、二五八
同工事指導監督費	—	—	三六、一八四	五七、一四四	三七、九一五
道路改良費本年度支出額	一、一〇一、〇八六	六六〇、八八九	六五八、六一〇	八七一、四四六	五二一、二六七
漁港修築費本年度支出額	一五五、四三八	一九八、七九三	二八八、三二一	二三四、七七七	一二四、三一〇
臨時匡救耕地擴張改良費	—	—	四六、三八二	四二七、九九二	五九〇、四七七
同事業職員費	—	—	三六、一三一	—	三二、六七一
漁村共同施設助成費	—	—	四三、二八三	一六八、八二九	六七、八七三
醫療救護費	一四、九〇五	一四、二二三	五八、六一四	六一、四四五	三〇、四七六
旱害應急施設費	六六二	二八、八二一	二〇一、九一三	五九八、八九八	—
國道改修負擔金	一〇〇、〇〇〇	六六、六六七	六六、六六七	一六六、六六七	—
雜出及其ノ他	一、三九〇、〇一〇	一、五〇五、八二三	一、五一六、九五六	九二〇、九七五	三六七、〇六五
計	八、一六四、九六五	五、一三一、七〇一	六、〇三六、〇〇一	七、一〇四、三〇五	五、八九一、九六五
合計	一三、六七六、七一九	一〇、四九五、八七四	一一、一〇〇、四七四	一三、〇五二、四九三	一一、〇三九、二一八

(三) 國庫支辨ニ關スル廳費（單位圓）（決算額）

	昭和十一年度	同十年度	同九年度	同八年度	同七年度
經常費 神社費及國幣社例祭幣帛料	三、五六八	三、一八八	三、四五八	三、五七八	三、八〇一
俸給及給料	二三一、〇五七	二二八、六五九	二二八、二五九	二二七、五七七	二二二、五九〇
廳費諸給及雜費	六〇、七一〇	五一、〇三八	五三、八九三	五三、五二一	九八四
徵兵費	七六、五七四	五四、六六二	五二、一五六	五三、七九〇	二六、一四七
警察費連帶支辨金	三三四、八六一	一八二、四二三	一八七、五一五	一八三、八九五	一九一、三九〇
機密費	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇	一、〇五〇
傳染病豫防費補助	七一、九三三	五四、〇二八	五二、八九六	二、六一九	四一、〇三三
地方感化院費補助	二三、四一九	二四、五一〇	二六、一〇八	二、四四三	三一、九二四	三一、三一
軍事救護費	一、七八九	八七九	六八四	三一、九二四	四一、〇四七	六八六
雜支出及其ノ他	六〇三、九六一	五〇九、四三六	五六、〇一九	五一、四四四	五一、四四四	四七〇、〇一三
計	一、一三八	一、〇〇〇	三〇〇	六六九	六六九	二、四九六
營繕費	一〇一、七二八	一〇、〇六二	五四、七四二	一一二、〇三六	一一二、〇三六	五、九二七
災害費	四、四五三	一、〇七三	六七四	六二四	六二四	三八八
地方改良費						
治水事業費	—	—	—	—	—	—
臨時部 議員選擧費	—	—	—	—	—	—
道路改良費	五三、六三	五〇、六七三	一四三、一〇九	一〇六、四三一	一三三、六九七	
港灣改良費	—	八、五四五	九二、二四四	九二、三七八	七四、二九四	
中小河川改良費	—	一四、二〇三	一五〇、三三八	一七〇、八五七	一一、八四七	
縣道及町村道路改良費補助	—	四〇、六四〇	四三一、一七五	一、一三八、五七〇	一、〇九四、〇〇〇	
開墾監督費	四、五四二	三、三九一	三、五〇五	三、四二三	三、四四二	
警察特別施設費	六、九七〇	五、九八七	五、三四一	五、二七〇	五、三六五	
傳染病豫防費	一四、五六八	一三、九二九	二、一五六	二、一、三六〇	二、一、二九	
其ノ他	四九七、二九一	三二四、七〇七	二九五、一二五	九五、七九三	三六、九五九	
計	六八四、二九二	四七四、二一〇	一、一八八、六九九	一、七六、四一四	一、四六八、五四四	
合計	一、二八八、二五三	九八三、六四六	一、七〇四、七一八	二、三三七、八五八	一、九三八、五五六	

三一　市町村財政

市町村財政ハ大正十二年關東大震災ノ復興事業等ノ爲依然膨張ヲ續ケ十年前卽チ昭和二年度ニ於テハ歳入千四百四十五萬餘圓、歳出千二百八萬餘圓ニ達シタルモ其ノ後漸次復興事業ノ進捗ト他面經濟緊縮ノ爲減少セリ、然ルニ昭和七年度ニ於ケル農村振興時局匡救ノ諸施設ノ爲再ビ膨大シ昭和十年度ニ於テハ歳入千三百七十七萬餘圓、歳出千百三十二萬餘圓ニ達セリ、尙昭和十一年度豫算額ニ於テハ歳入千百六十八萬八千四百三十一圓、歳出千百二十四萬八千四百三十一圓ニ減少セリ、而シテ其ノ歳入中ノ主ナルモノハ稅收入ニシテ總額ノ五割三分三厘ニ當レリ、國庫下渡金ノ同一割七分三厘之ニ次ギ、歳出ニ於テハ教育費其ノ半ヲ占メ總額ノ四割九分五厘ニ當レリ。

(一)　歳入

(單位圓)　(昭和十一年度ハ當初豫算額其ノ他ハ決算額)

	昭和十一年度	同 十年度	同 九年度	同 八年度	同 七年度
市町村稅	六、三三一、三三五	六、〇〇八、一六六	五、四〇三、八六一	四、九四八、七八九	四、八二二、六一五
夫役現品	—	—	—	—	—
財産收入	二三九、八四〇	二三三、三九一	二三六、二五七	二四八、二一八	二六一、〇一三
使用料及手數料	三四六、六五三	三二七、五五四	三二一、五〇九	二八八、七三八	二六一、一七四
財産賣拂代	五七、二八二	六四、八九三	三五、〇〇三	二五、二五五	六、五一六
雜收入	三九一、二四六	四二一、五九六	三七〇、一三七	二五四、二七〇	三五四、六〇八
前年度繰越金	四三三、六二三	一、四八七、二四九	一、一四七、一九二	九四四、七〇四	一、〇〇一、九五七
御下賜金及宮內省補助金	三、一五二	三、九二二	三、九二九	六二三	四、二四三
國庫下渡金	二、〇三四、〇三一	二、〇四五、七四一	二、二二一、四二六	二、〇二三、四八三	二、一三一、一〇八
國稅徵收交附金	—	九九、〇五五	九五、一九四	九一、三二九	一〇六、一〇二
縣稅徵收交附金	一〇三、一一〇	二八、五七六	一一〇、七七五	一〇六、八二六	一一三、九五九
水利組合費徵收交附金	一二三、一七三	一、三五一	八一六	八七三	七五〇
耕地整理組合費徵收交附金	一、〇八三	四三九	四八七	四五八	三一三
補給金	三一七	—	—	—	—
收入證紙取扱交附金	二、五三〇	一三、六五〇	五、八五一	五、五四一	四、九一三
縣奬勵交付金	五、四一九	六、七二三	—	—	—
選擧公營交付金	五	九	一一五	—	—
國庫補助金	—	一一五	一一二、三九七	一二八、四二三	一二五、九九九
縣費補助金	七三、一九〇	九九、七七五	八四七、八二三	一、五九七、四一九	一、三〇六、一一一
寄附金	一六二、九八九	四一三、四四三	三七四、八〇一	三三一、一八二	二六二、〇七三
繰入金	一二九、六六八	三四一、六七七	六〇七、〇三八	三六六、七一三	三九二、三九一
市町村債	一〇一、三六九	三七二、三七四	一、八八二、一二八	一、三六九、二三四	九六八、四七九

| | | |

三二 諸稅負擔

本縣昭和十一年度諸稅負擔總額ハ千九百九十一萬餘圓ニシテ、一戸當リ六十八圓六十一錢人口一人當リ十三圓十二錢ナリ。而シテ國稅ハ八百四十六萬四千餘圓ニシテ總額ノ四三%ヲ占メ縣稅ハ五百二十二萬餘圓ニシテ二六%ニ當レリ。

	昭和十一年度	同 十年度	同 九年度	同 八年度	同 七年度
國稅	八、四六四、八九一円	七、六四三、七八六円	七、六七九、四〇六円	七、五〇二、九五六円	六、五六三、二九一円
縣稅	五、三三〇、二五三	五、〇四五、〇二四	五、一二五、四八二	四、八一五、一七六	四、七五八、五三九
市町村稅	六、三三一、二二五	五、八二五、八六〇	五、四〇四、六九五	四、九四八、七八九	四、八二二、六一五
計	一九、九一六、三六九	一八、五一四、六六〇	一八、二〇九、五八三	一七、二六六、九二一	一六、一三四、四四五
百分比例 國稅	四二・五〇	四一・二八	四二・一七	四三・四五	四〇・六八
百分比例 縣稅	二六・二一	二七・二五	二八・一五	二七・八九	二九・四九
百分比例 市町村稅	三一・二九	三一・四七	二九・六八	二八・六六	二九・八三
平均負擔額 一戸當	六八・六一	六二・九九	六一・九五	六一・〇九	五七・八五
平均負擔額 一人當	一三・一三	一二・九七	一二・七八	一二・六六	一二・〇八

備考 昭和十一年度ノ縣稅、市町村稅ハ豫算額ヲ揭ゲ。

三三 議會

貴族院議員中多額納稅者議員互選權者ハ二百人(昭和七年六月)、選擧有權者ハ衆議院議員三十三萬七千七十六人(昭和十一年二月)、縣會議員三十二萬八千百九十三人(昭和十一年一月)、市町村會議員三十二萬二百五十三人ニシテ貴族院多額納稅者議員二人、衆議院議員十一人、縣會議員四十二人、市町村會議員四千五百四十八人ナリ。

(一) 貴族院多額納稅者議員互選權者人員納稅額

	人員	納稅額	一人納稅額 最多	一人納稅額 最少	一人納稅額 平均
昭和七年六月	二〇〇	一六二、五八一円	七、一四七円	四〇六円	八一三円
大正十四年六月	二〇〇	四一五、六八二	一〇、五七四	七〇六	二、〇七八
同 七年六月	一五	四二、八六四	四、八八七	一、五六九	二、八五六
明治四十四年六月	一五	七六、六六一	一九、七三二	二、九七七	五、一二一
同 三十七年六月	一五	二三、六七八	五、〇〇四	一、〇〇〇	一、五一二

(二) 衆議院議員選擧

	議員數	選擧權ヲ有スル者	選擧權ヲ有スル者ノ中 投票セシ者	選擧權ヲ有スル者ノ中 投票セサリシ者
昭和十一年二月	二	三三七、〇七六	二四六、三〇五	九〇、七七一
同七年二月	二	三三〇、六二六	一九二、四四四	三四、四九四
同五年二月	二	三二一、八五八	二五九、七七七	五二、〇六一
同三年二月	二	三〇五、九七八	二三四、五四四	七一、四三四
大正十三年二月	二	八九、九七九	八二、六四九	七、三三〇

(備考) 昭和七年二月ノ選擧ニ於テ衆議員選擧法第七十一條第一項ニ依リ選擧區第二區ニ於テ投票ヲ行ハサリシニヨリ投票セシ者ト投票セサリシ者ノ合計カ選擧權ヲ有スル者ト符合セス。

(三) 縣會議員選擧

	議員數	選擧權ヲ有スル者	選擧權ヲ有スル者ノ中 投票セシ者	選擧權ヲ有スル者ノ中 投票セサリシ者
昭和十一年一月	四二	三三八、一九三	二二八、〇三七	九二、四八〇
同七年一月	四二	三一三、一〇八	二〇六、四六一	五八、五九三
同三年一月	四二	三〇二、一三八	二二五、七一四	八六、四二四
大正十三年一月	四二	一四六、四八六	一〇九、六六〇	三六、八二六
同八年九月	四二	七三、〇九八	六二、一九三	一〇、八〇五

(備考) 昭和十一年一月ノ選擧ニ於テ千葉郡ハ無投票區トナリタル爲メ同年ノ投票セシ者ト投票セサリシ者ノ合計カ選擧權ヲ有スル者ト符合セス。昭和七年一月ノ選擧ニ於テ千葉郡及君津郡ハ無投票區トナリタル爲亦同シ。

(四) 市町村會議員選擧

(各年末現在)

	市町村數	議員定數	選擧權ヲ有スル者	議員一人ニ付選擧權ヲ有スル者
昭和十一年	三三八	四、五四八	三三〇、二五三	七〇・四
同 十年	三三八	四、六三八	三二八、一六〇	七〇・八
同 九年	三三八	四、六三〇	三二四、六四七	六九・一
同 八年	三四一	四、六七二	三二〇、三五四	六九・三
同 七年	三四七	四、七六一	三一五、九一六	六六・三

三四 官公吏

昭和十一年末ニ於ケル本縣職員ノ總數ハ二千八百十人ニシテ、內勅任一人、奏任二十二人、奏任待遇者九十四人、判任二百二十七人、同待遇者千三百四十九人、縣吏員八百十七人、雇員三百人、之カ俸給總額ハ百二十七萬千二百八十九圓ナリ。又昭和十一年末ニ於ケル市町村吏員ハ總數一萬二千五百十五人ニシテ市町村長三百三十四人、助役三百二十四人、收入役三百二十九人其ノ他ノ吏員千五百七十人、常設委員其ノ他ノ名譽職員一萬千九百五人ナリ。而シテ有給吏員千九百四十七人ニシテ之カ俸給八十四萬四千八百四十二圓ナリ。

(一) 縣職員及俸給額

	昭和十一年末			昭和十年末		
	人員	俸給 國費	俸給 縣費	人員	俸給 國費	俸給 縣費
勅任	一	五、三五〇円	—	一	四、九二〇円	—
奏任	三	四六、五八〇	二、四七〇	二六	四七、七九八	一〇、三六〇
奏任待遇	九四	三、二九〇	一四四、三九〇	八五	一、八二〇	一三三、三八〇

判任	二二七	八〇、一八〇	九三、二〇四	二二六	七八、二五八	八六、四八四
判任待遇	一、三四九	四、三二〇	三八〇、三四八	一、三三七	三、一六四	八二〇、二二四
縣吏員	八一七	—	三七七、九三七	七二二	—	三四五、九三四
雇員	三〇〇	二四、一五六	九九、九六四	二六六	一九、四七六	九二、三八四
計	二、八二〇	一六三、九七六	一、一〇七、三二〇	二、六五五	一五五、五三六	一、四八七、七六六

(二) 市町村吏員（昭和十一年末）

名譽職	有給	計	有給吏員俸給年額 円
市町村長	三二四	三二四	一八、八七〇
助役	二八六	二八六	二七、一五一
收入役	—	—	一四二、六九二
其ノ他吏員	—	三二九	六五六、二二九
常設委員	六、〇一五	一、五七〇	—
區長	二、九九六	六、〇一五	—
區長代理	二、八九四	二、九九六	—
計	三、五一五	二、八九四	—
		一、九四七	八四四、八四二

三五　最近十年間ニ於ケル消長

	昭和十一年	昭和二年	昭和二年ヲ百トシテノ指數
人口總數	一、五八、五六二	一、四三五、七〇〇	一〇七
男	七四一、八二四	七〇五、六〇〇	一〇五
女	七七六、七三八	七三〇、一〇〇	一〇八
教育			
小學校兒童	二六〇、一八八	二三三、五八三	一一六
尋常	二三三、七七一	一九二、六七六	一一六
高等	三七、四一七	三〇、九〇七	一三一
中學校生徒	七、七五七	六、四四七	一三〇
高等女學校生徒	七、六九四	六、一五二	一一五
實業學校生徒	七、五〇五	三、三五四	二二四
甲種	四、七一五	一、七二六	一七三
乙種	二、七九〇	一、六二八	二二一
青年學校生徒	五六、三〇四	二五、四二六	一九一
男	三三、三五二	一七、四四八	

女學費(支出)	三一、九五一	七、九七八	二八八	
公學費(支出)	八、〇三三、一七五円	八、二九三、一五四円	九七	
生産 總額	二八〇、一六〇、七一八円	二一五、九七三、五八四円	一三〇	
農産額	一〇七、四〇三、三〇四	一〇五、六八七、六五四	一〇二	
蠶産絲産額	一〇、三七八、六四〇	一三、五五九、一七	七七	
畜産額	八、三二八、四七八	一〇、四三〇、六五二	八二	
林産額	四、五七七、一三四	五、八九一、七七〇	七八	
鑛産額	七六九、〇一三五	一、八九〇、八一三	四一	
水産額	三〇、二四二、三三四	一八、二四七、〇六〇	一六六	
工産數	一八、三六一、八〇三	六〇、二六六、四五八	一九六	
社會			三一	
資金	三一、二四一、二九六円	七四、一二六、五九八円	一六四	
行數	九三四	三〇〇		
資本金	三、七七〇、〇〇〇円	一六、七七五、九九一円	二九	
資本金	五	一七		

貯金	一〇〇、四一一	一二六、九四一	六三	
銀行貯金 人員	二九、四九一、七二四円	一六、七七五、九九一円	一七六	
銀行貯金 金額	八二一、七四一	五五七、〇四四	一四六	
郵便貯金 人員	六三、一八一、一三六	三五、二四五、九〇三円	一七九	
郵便貯金 金額	二八六、三〇七円	二〇〇、二六七	一四三	
團體貯蓄 團體員數	一三、七一三、七三六	八、七七一、一一九円	一五六	
團體貯蓄 金額				
鐵道				
國有 線路延長	五一五・七粁	二六五・二粁	一九〇	
國有 旅客賃金	六、三五六、四〇四円	五、四六七、二三一円	一三四	
國有 貨物賃金	二、三一六、四一五	二、三三二、七五〇	一〇〇	
地方 線路延長	一七三・一粁	七六・四粁	二三七	
地方 旅客賃金	二九一、六六三円	二七六、六〇二円	一〇五	
地方 貨物賃金	一六八、七一七	一〇七、七九六	一五七	

諸車				
自動車	三、三〇七	八四四	三九二	
人力車	四一四	一、〇六三	三九	
馬車	六、一六五	八、五七八	七二	
自轉車	一七九、九七六	一〇五、八三六	一七〇	
郵便				
通常郵便引受通數	五三、四五七、八七一	六九、八八七、七二一	七六	
電報發信通數	五九八、六七八	七一四、〇六〇	八四	
財政				
縣 歲入	一六、一三五、〇六五円	二一、〇六四、九六三円	一四八	
縣 歲出	一三、六七六、七一九	一〇、一三二、三七〇	一三四	
市町村 歲入	二一、六八八、四〇三	一四、四五〇、三三五	八一	
市町村 歲出	二一、二四八、四三一	一三、〇八五、二五五	九三	

附錄

一　著名神社

(名稱)	(祭神)	(社格)	(所在地)
●安房神社	天太玉命	官幣大社	安房郡神戸村

神武天皇の御宇、天富命東國巡視の際勅を奉じて天太玉命を祀り、社を建て安房大神と稱し、後ち安房神社と改む。祭典　七月十日

●洲宮神社	天比乃理刀咩命	縣社	安房郡神戸村

神武天皇の御宇勅を奉じて天富命これを創立す。

●洲崎神社	天比乃理刀咩命	縣社	安房郡西岬村

舊記の存するものなく由緒詳かならざるも、創立は神武天皇の御宇にかゝり延喜式内大社の一たり。

●飽富神社	稻倉魂命	縣社	君津郡根形村

人皇二代綏靖天皇即位元年四月朔日鎭座とあり。

●橘神社　弟橘媛命　縣社　長生郡本納町

景行天皇四十年日本武尊勅を奉じて東征のため相模より舟行上總に渡り奥地に入らんとする際、風浪大いに起りて船進まず、尊妃弟橘媛身を挺して海中に投じ尊の一行恙なきを得たり。尊その忠死を痛み媛の遺物（海邊に漂着したる御櫛）を納めて之を祭る。本社の後丘に在るは卽ち御陵なり。明治五年正月縣社に列せらる。

●玉前神社　玉依媛命　國幣中社　長生郡一宮町

海神豐玉喜命の姫、玉依媛命を祀る。延喜式内大社にして明治四年六月國幣中社に列せらる。祭典　九月十三日

●八幡神社　譽田別命　縣社　市原郡八幡町

人皇四十代天武帝の御宇、白鳳四年三月勅命をもつて此の地に鎭座す。

●姉崎神社　志那斗辨命　縣社　市原郡姉崎町

日本武尊東征の際鎭座するところにして、其後景行天皇の御東幸の砌り尊を相殿に親祭在らせらる。

●高瀧神社　瓊々杵尊、玉依媛命、別雷尊　縣社　市原郡高瀧村

人皇四十代天武天皇の白鳳二年、山城國加茂兩社を祭祀するところたり。

●島穴神社　支那津比古命　縣社　市原郡東海村

日本武尊東征の際之を創立し景行天皇御東行に當り日本武尊及び倭比賣命を合祀せらる。

●意富比神社　天照皇太神　縣社　船橋市

日本武尊東征の際船にて湊鄕（現船橋の舊名）に到りし時大旱のため池水渴き五穀草木悉く枯涸し民兵共に困槁す。是に於て尊降雨と東夷征服とを併せて祈願し、天照皇太神を奉祀せらる。

●香取神宮　經津主命　官幣大社　香取郡香取町

經津主命は蓋し我國將帥の始祖なり。神代の昔天照太神の神勅を奉じ、東征して國内の强暴邪神を驅逐平定し皇孫瓊々杵尊を中國に君臨せしめ給ひて皇統連綿萬世一系の基を樹て遠き神世の昔より東國楫取の地卽ち現在の地に鎭座し給へり。宮柱の創立は實に神武天皇十八年なり。造營につき國史に始めて記錄せられたる日本後記に、弘仁三年六月住吉香取

鹿島二神社は二十年を隔て皆改造するとあり。爾來社殿の改造幾十回ならず、現存するものは元錄十三年德川五代將軍綱吉公の造營にかゝり、正殿のみ去る二十八年舊材を用ひて改造せり。明治四年官幣大社に列せらる。

祭典　四月十四日

●小御門神社　藤原師賢卿　別格官幣社　香取郡小御門村

本社は元公卿塚または大納言塚と稱し高さ一丈四、五尺周圍二十丈許りの塚に過ぎず、淀藩主稻葉侯の領に屬せり。享保七年侯の臣磯邊正言なるもの佐倉風土記を著はし、卿の墓たることを表す。安政元年水戸源烈公、書を稻葉正邦に寄せて墳墓の由來を問ひ、事實を詳かにせり。明治十一年三月內務卿大久保利通、上諭を奉じて千葉縣令柴原和に命じ墓所に記念碑を建設せられ、同十二年一月、號を小御門神社と賜ひ、翌十三年有志者社殿新營を嘉せられ特旨を以て金三百圓下賜、同十五年御劍一口を賜ひて神靈とす。同二十九年別格官幣社に列せられ、同年十月五日社序に南朝忠臣奉祭の神社中第一の席に定めらる。

●大戸神社　天手力雄命　縣社　香取郡東大戸村

景行天皇四十年、倭建命夷賊征討の祈願に依り勸請し、天武天皇白鳳元年再建後更に伏見小松、靈元各帝の勅命をもつて造營せらる。

●神崎神社　少彦名命、大巳貴命　縣社　香取郡神崎町

白鳳二年二月朔日、常陸國河內郡と下總國香取郡の交際なる大浦沼の二島より遷座する所にして曩に小松神社、六所鎭社、神崎大明神または神崎大社と稱し明治元年神崎神社と號す。

●東大神　玉依比賣命　縣社　香取郡橋村

景行天皇五十三年十月東國御巡幸の際、上總國より此の地に到り勅命を以て鎭祭し一社を造營せらる。

●千葉神社　天御中主命　縣社　千葉市

人皇六十六代一條天皇の長保二年、千葉介平忠常勅を奉じて勸請し、以て勅願所とせり。德川家康同社のため特に神領三百石を寄進す。維新の際千葉神社と改め縣社に列せらる。

●葛飾八幡神社　譽田和氣命　縣社　市川市

人皇五十九代天武宇多天皇の御宇寬平年間に勅願鎭座す。

二　著名寺院

(名稱)	(本尊)	(宗別)	(所在地)
●日本寺	藥師如來	曹洞宗	安房郡保田町

聖武帝の神龜元年、僧行基勅を奉じて藥師の尊像を自刻し、翌二年本寺を創立して之を安置す、本朝三藥師の一たり。

●鏡忍寺	日蓮上人	日蓮宗	安房郡東條村

本宗四十四ヶ本山の一にして弘安四年長榮坊日隆の創立にかゝり、宗祖日蓮四難の一靈地たり。

●清澄寺	虛空藏菩薩	眞言宗	安房郡天津町

光仁帝寶龜二年、不思議法師虛空藏菩薩の像を自刻し堂宇を造りて安置し、後承和元年に至り慈覺大師古迹を中興す。

●誕生寺	日蓮上人	日蓮宗	安房郡小湊町

文永元年宗祖日蓮自ら草庵を結び莊嚴道場堂と稱す。後建治二年弟子日家、佐久間兵庫頭

重貞と共に協力して本寺を創建し、元祿年間現地に再建す。

●照願寺	阿彌陀如來	眞宗	夷隅郡大原町

眞宗本願寺の末派にして開祖念信俗名高澤氏信と言ひ佐竹氏に屬せしが、見眞大師の弟子となり常陸より移りて本寺を開基す。所藏の親鸞上人繪傳四卷は國寶として指定せらる。

●行元寺	傳教大師	天台宗	夷隅郡千町村

嘉承二年慈覺大師の開基にかゝり、當時草創の古迹は大多喜城趾の西にありて同大師の東國に於ける弘教の權興なり。開基後凡そ三百年にして兵燹に罹り多くの舊記を失す。

●神野寺	藥師如來　軍荼利明王	眞言宗	君津郡秋元村

人皇三十四代推古帝の御宇聖德太子の草創し給ふところにして、始め日本武尊を鎭守し併せて釋迦藥師・軍荼利、觀音の四體を安置せしが二百七十餘年後の嘉承年間に慈覺大師堂宇を再興す。降つて天慶年間兵燹に罹り藥師、軍荼利の二尊を胎せしのみにて其の後も屢々火災の厄に遇ひ、寶永三年に至り始めて現時の堂宇を再建す。弘化四年嵯峨帝の勅願所たり。

●高藏寺	正觀世音菩薩	眞言宗	君津郡鎌足村

藤原鎌足公の創律にかゝり白雉元年德義入道の開基するところにして、天平十七年僧行基宇内巡化の際本寺に留錫し高さ一丈一尺の觀音像を自作して之を納む。現存する建物は千百九十餘年前のまま變更することなく全國屈指の古刹たり。

●延命寺　地藏菩薩　眞言宗　君津郡平岡村

神龜元年の創立にして開基僧行基自刻の地藏ほか二體を納めて本尊とす。後正慶三年祐弼大僧都堂宇を再建し、天正十八年德川三代將軍家光寺領十石一斗を寄進せり。

●長福壽寺　阿彌陀如來　天臺宗　長生郡驛南町

人皇七十七代鳥羽天皇の御宇、天仁元年開基し八宗兼學の勅願寺にして天平山長福壽寺等二十八字の勅號を賜ひ、後天正二十年十七世住職僧正豪仙の代に至り東叡山の號を下し賜はり阪東祖林一統の本寺をもつて國家鎭護祈禱の道場とせしが、降つて寛永年間德川幕府が東叡山寛永寺を府下上野山に建立するに及び同寺中の護國院開基僧正生順、命により本寺に轉住あり其の節東叡山の號を除き舊大平山に復せり。

●藻原寺　釋迦牟尼佛　日蓮宗　長生郡茂原町

建長年間鄕士高橋某、齋藤某なるもの宗祖日蓮の高德に服し共に落飾して僧籍に入り堂宇を建つ、一を常在山妙光寺と稱し、他を庭谷山妙源寺と號す。故に今尙ほ藻原、墨田を兩山一寺とせり。卽ち本寺は妙光寺の改稱にして開基は日蓮の高弟六老僧の一なる後の日向なり。國内著名の古刹として知らる。

●鷲山寺　日蓮上人　日蓮宗　長生郡茂原町

宗祖日蓮の開山にして日辨上人の開基する所なり。文永二年四月、日蓮が茂原城主小早川内記の請ひにより此の地に草庵を結び止まること一夏、後建治三年日辨が城主の喜捨をうけて堂宇を建立す。本宗八品派の大本山にして實に南總有數の巨刹なり。

●笠森寺　十一面觀世音　天臺宗　長生郡水上村

本尊は延曆年中傳敎大師の自作にかゝり、始め當山の草堂に安置しありしが後一條天皇の勅願により堂宇を創建して之に遷座し、長元元年比叡山覺超大僧都を大導師として造主の供養を行ふ。故に傳敎大師を以て開基とし覺超法師を中興一世とす。

●本漸寺　日蓮上人　日蓮宗　山武郡東金町

往古は同郡松之郷村に在りて同夢山願成就寺と號し禪宗の大寺なりしが、後同村金谷に移し巨德山本漸寺と改め日蓮に改宗す。文永元年土氣城主酒井定隆の三男敏房、東金に城廓を構へ同所に住す。後薙髪して清傳入道と稱し本寺を現地に移し鳳凰山本漸寺と改む。

●西福寺　日蓮上人　日蓮宗　山武郡東金町

文明以前の創建にかゝり元天臺宗に屬し最福寺と稱したるも文明十一年三月住職日近大僧都に至り改宗す。依て同師をして中興の開基とす。天正年中西福寺と改め德川家康寺領三十石を寄進せり。

●觀音寺　十一面觀世音　天臺宗　山武郡二川村

人皇四十九代光仁帝の寶龜十一年京都に大火あり。多くの寺院烏有に歸せしため諸國に勅して佛寺を建立せしむ。依て翌年本寺を創建し天應山感音寺と稱す。次で天長二年に工を起し七堂伽藍を建て八十餘宇の末寺を設け關東著名の一大梵刹たりしが、後年屢々兵燹に罹り現存するもの僅かに二十餘宇に過ぎず、俗に芝山仁王尊と稱するは是れなり。

●藥王寺　南無妙法蓮華經　日蓮宗　山武郡源村

日蓮宗妙滿寺派に屬し延享二年火災に罹り古記什寶悉く灰燼に歸す。後ち堂宇を再建せるも創立其の他の舊事詳かならず、伽藍宏壯にして藥王堂あり、本尊の藥師像は僧最澄の作なりと傳ふ。眼病の治癒祈願のため參籠するもの多く又眼藥を發賣す俗に布田の眼藥と稱す。

●西願寺　阿彌陀如來　天臺宗　市原郡平三村

承平中領主土橋平藏政常の建立にかゝり境內阿彌陀堂は飛彈匠の弟子四郎三郎の手に成ると傳ふ。大正五年特別保護建造物に指定せらる。

●金光寺　藥師如來　眞言宗　千葉郡千城村

正德二年貞成法師の開基創建にかゝり、天文二十年火災のため堂宇悉く烏有に歸せしも、後原式部大輔胤清の歸依により再建するを得たり。慶長以前は門末寺院五十有餘ありしも爾後廢滅せるもの多く現存僅か十ヶ寺に過ぎず。

●萬滿寺　釋迦如來　臨濟宗　東葛飾郡馬橋村

建長年間千葉頼胤鎌倉極樂寺良觀律師忍性を招じて大日寺を創建せり。後三世貞胤に至り大日寺を千葉に移すに及び夢想國師の法嗣古天を請じて禪刹とす。天文年中小金城主高城

胤辰、紫大德寺の僧謹甫を招じて中興開基となし寺領五百石を寄進せしが、天正十八年高城氏亡び德川氏亦舊領五百石を寄進せり本寺の木造金剛力士立像二軀は國寶として指定せらる。

●結　緣　寺　　大日如來　　眞言宗　　印旛郡船穗村

神龜年中僧行基の創建にかゝり自刻の阿彌陀像を安置す、寺寶の不動明王立像は國寶に編入せらる。

●東　勝　寺（宗吾靈堂）　　大日如來　　眞言宗　　印旛郡公津村

本寺は著名の古刹なるも火災に罹り舊記を燒失せしため開創年歷詳かならず、寛文八年法印澄祐を以て中興の開山とす。義民木內宗五郎の菩提所にして印旛沼畔なる字下方に在りしが大正五年一月宗吾靈堂に移轉し、靈堂をして境內の獨立佛堂とせり。靈堂は明治四十三年悉く烏有に歸したるも大正十一年工全く成りて殆ど舊觀を復せり。

●新　勝　寺（成田山不動本尊）　　不動明王　　眞言宗　　印旛郡成田町

本尊の不動明王は洛西高尾山神護國祚寺傳來の靈像にして天慶二年平將門叛逆を企てし際僧寛朝勅を奉じて尊像を此の地に遷し逆賊降伏の密咒を修めたるに其の功空しからず、逆徒誅に伏したるを以て帝深く之を嘉し特に供田を賜ひ、緣りを高尾山に因みて神護と號し一宇を勅許せられ新らたに敵に勝つの故を以て新勝寺と稱す實に關東屈指の靈場たり。

●觀　福　寺　　正觀世音　　眞言宗　　香取郡佐原町

始め往古辻坊と稱する草庵なりしが空海上人行脚の途次本坊に宿泊せしより眞言宗に歸依し、寛平二年僧尊海に至り堂宇を建立して觀福寺と改む。同年國司高眞王祈願のことあり、爾來千葉氏の祈願所たり。德川氏に至り子午の年毎に年始獨禮の拜謁を許され守札を獻上せりと、寺寶の釋迦像ほか三軀は國寶に指定せられ、古畫古文書の所藏尠なからず。

●日　本　寺　　日蓮上人　　日蓮宗　　香取郡中村

天平十五年僧日圓の創立にかゝり日蓮派の宗敎學園たりしが、明治八年始めて住職ある寺院となれり。

●龍　正　院　　觀世音菩薩　　天臺宗　　香取郡滑河町

承和五年守護小田宰相將治の創立にして慈覺大師の開基にかゝり坂東二十八番の札所とし

て知らる堂前の仁王門は建築頗る古く特別保護建造物として指定せらる。

●龍福寺　不動明王　眞言宗　海上郡瀧郷村

眞言宗京都仁和寺の末派にして創立年月詳かならざるも、弘仁六年僧空海、不動明王及び二童子の像を刻し新たに堂宇を建立して之を安置すと傳ふ。境内に瀑布數條あり幽邃の地なり。

●西光寺　阿彌陀如來　眞言宗　匝瑳郡八日市場町

人皇百一代後小松院の御宇應永三十四年の創立にして鏡照法印の開基にかゝり、飯倉城主椎名伊勢守堂宇を寄進すと。天正八年德川幕府より朱印二十石を賜ふ。

●千葉寺　十一面觀世音　眞言宗　千葉市

人皇四十三代元明天皇の和銅二年行基菩薩の開基するところにして、本尊は同菩薩が櫻樹を以て自刻せるものと傳ふ。天正十九年德川家康領百石を寄進す。

●大日寺　大日如來　眞言宗　千葉市

眞言宗の末派にして天平寶字元年藤原家郷これを建て僧仁生をして開基とす。千葉氏累代

の菩提所にして常兼より胤將に至る十六世の墓あり。

●大嚴寺　阿彌陀如來　淨土宗　千葉市

天正二十年道譽上人の開基するところにして生實城主原式部大輔胤榮の創建にかゝり、淨土宗東國十八檀林の一なり。

●圓福寺　十一面觀世音　眞言宗　銚子市

本尊は聖武帝の御宇神龜元年、漁夫の網に罹り海底より曳き揚げられたりと傳ふ。弘仁年間弘法大師遊化の際、一富豪資を投じて堂宇を建立し請ふて大師に開眼の密法を修む。故に大師を開祖とし坂東三十ヶ三所靈場の隨一にして、世に銚子觀音として著聞たり。

●弘法寺　釋迦如來、多寶如來　日蓮宗　市川市

弘法大師の創建にかゝり始め天臺、眞言兩部の一大梵刹たりしが、後了性法師に至り大檀那富木胤繼なるもの日蓮の宗義を信じ互に抗して一日宗義を論義し座主了性遂に屈して其徒と共に山門を脱散せり。是において胤繼改めて日蓮宗となし眞間山法華堂と稱せり。次で更に弘法寺と改め之が開祖たらんことを宗祖日蓮に請しも日蓮之を許さず、徒日頂をし

て其の任に當らしむと。天正十九年德川家康寺領を寄進す。境內に正和以降の古碑七基あり塔中七院末派三十二寺を有す。

●法華經寺　釋迦牟尼佛　日蓮宗　市川市

日蓮宗の大本山にして身延、池上等と併稱せられ本宗四大本山の一なり。文永十一年太田乘明その居城を捨て、寺となし本妙寺と號し、長子を出家せしめ日高と呼びて住職たらしむ當時隣鄉に富木胤繼なるものあり、乘明と共に日蓮に歸依すること厚く一寺を創建して法華經寺と稱したりしが後ち兩寺を併合し爾來獨立して他に依屬せず門末より輪番に之を保持せしも明治三年終生住職の制に改む。俗に中山の鬼子母神として著聞たり。境中の五重塔及び法華堂は特別保護建造物にしてまた所藏の十六羅漢像屏風一雙は國寶に指定せらる。

三國寶

●彫刻　安房郡丸村　石堂寺所藏　一軀

木造十一面觀世音立像

●石堂寺本堂　安房郡丸村　石堂寺境內

桁行四間、梁間三間、單層、屋根四注造、茅葺

●大聖寺不動堂　夷隅郡大原町　大聖寺境內

桁行三間、梁間三間、單層屋根四注造、茅葺

●繪畫　夷隅郡大原町　照願寺所藏　四卷

紙本著色親鸞上人繪傳

●神野寺表門　君津郡秋元村　神野寺境內

四脚門、屋根切妻造、茅葺

●笠森寺本堂　長生郡水上村　笠森寺
桁行五間、梁間四間、單層、屋根四注造、銅板葺

●鳳來寺觀音堂　市原郡富山村　鳳來寺境內
桁行三間、梁間三間、單層屋根寄棟造、茅葺

●阿彌陀堂　市原郡平三村　西願寺境內
方三間、單層屋根方形造、茅葺

●彫刻　東葛飾郡馬橋村　萬滿寺所藏
木造金剛力士立像　二軀

●鑄造　印旛郡船穗村　結緣寺所藏
銅造不動明王立像（銘嘉元元年九月）　一軀

●長樂寺本堂　印旛郡大森町　長樂寺境內
桁行三間、梁間四間、單層屋根寄棟造、茅葺

●鑄造　印旛郡安食町　龍角寺所藏
銅造藥師如來座像　一軀

●龍正院仁王門　香取郡滑河町　龍正院境內
八脚門、屋根四注造、茅葺

●鑄造　香取郡佐原町　觀福寺所藏
銅造釋迦如來座像（銘弘安五年八月）　一軀
銅造十一面觀世音座像（銘右に同じ）　一軀
銅造藥師如來座像　一軀
銅造地藏菩薩座像（銘延慶二年三月）　一軀

●鑄造　香取郡香取町　香取神宮所藏
銅造海馬葡萄鑑　一面

●繪　畫　　市川市　　法華經寺所藏

絹本著色十六羅漢像八曲屏風（越璃筆）　一雙

●法華經寺塔婆　　市川市　　法華經寺境内

三間五層塔婆（五重塔）　屋根銅板葺

●法華堂附四足門　　同　　同

桁行五間、梁間四間、單層、屋根入母屋造、銅板葺、四足門、屋根切妻造、柿葺

四史蹟名勝

●源頼朝上陸地　　安房郡勝山町

源頼朝は治承四年八月相州石橋山の合戰の後同國土肥郷眞名鶴崎を發して安房國へ渡航し、二十九日同國平北郡猟嶋に著けり。（昭和十年三月縣指定）

●九十九坊廢寺阯　　君津郡八重原村

奈良朝時代の初め藤原氏勃興の時に際し周淮郡の大領なりし藤原房前の代官として藤原安磨が和銅の頃此所に大寺を建立し五重塔其の他の伽藍を有し其の地方崇拜の的なりしものなるべし、現在は僅かに塔心礎と土壇を存し瓦を見出すに過ぎず。（昭和十年十二月縣指定）

●飯野割見塚古墳　　君津郡飯野村

山林四段十八歩の地積を占め略々正方錐體をなす、一邊の長さ二十二間高さ二十尺にして一面に雜樹茂生す、頂上は稍平坦なれども曾て發堀したる傳説なく、又遺物の發見なきも

嚴密に發掘すれば相當發見あるべきものと信ず。（大正十三年三月假指定）

●飯野稻荷古墳　君津郡飯野村

地積約一段歩を占め形狀略方錐體をなせども、東部は元稻荷祠の參道ありしを以て階段狀をなせり、一邊の長さ約十間、高さ十三、四尺にして形狀頗る正整なれども稻荷祠の爲め稍形を變したるべしと想像せらる。（大正十三年三月假指定）

●辨天山古墳　君津郡大貫町

現大貫小學校の東側なる車塚にして長徑六十間、周圍百四十間あり、前方後圓の形式を備へ關東地方に此の種の古墳は實に稀なりとす。石廓より古刀劍、土器、曲玉、鐵鏃、人骨等發堀され今尙ほ塚の前部には埴輪圓筒の小破片散在す。

年代その他詳かならざるも恐らく有史最古のものにして領主の墳墓なりしやの考證を得るのみ。（昭和四年十二月文部省指定）

●白井烏醉の墓　長生郡東村

烏醉は現長生郡東村地引の人元祿四年生る、早く家を嗣ぎて一鄕の代官たりしも他鄕に出遊して領主の怒りに觸れ隱居して玄海と稱す、俳諧を識り江戸に出て柳居に師仕し元文五年許されて葛飾に三斛庵を營み烏醉と改む、以降三十餘年芭蕉俳諧の顯揚を計り明和六年四月歿す、遺骨を三分し本村正善寺境內、大磯鳴立庵、品川海晏寺に葬る、（昭和十年三月縣指定）

●菊間東關山古墳　市原郡菊間村

瓢形古墳にして前部は北西に後部は南東にありて形態略前方後圓式なるもの、如し。後部は長徑八間餘、短徑五間半、高さ約十七尺にして階段を認めず、前部は長徑五間短徑三間餘高さ十八尺にして後部と大差なく唯形態稍少なるのみ、前部と後部との距離は十三間餘にして瓢塚の形態稍不整なるは蓋し崩壞によるものなるべし。（大正十三年三月假指定）

●上總國分寺塔趾　市原郡市原村

上總國分寺は僧行基の開山にかゝり、創建當時は藥師本堂、五重寶塔、護摩堂その他一百餘宇の堂舍と二百餘宇の僧坊ありて偉觀を極めしも、後天慶三年平將門亂を起すや兵燹に

罹りて一宇も殘さず烏有に歸したるを元祿年間に至り僧快應再興す。現存する本堂、藥師堂、仁王門等卽ち之にして塔趾は藥師堂の南方凡そ三十間の畑地に在り、礎石五個現存す。

（昭和四年十二月文部省指定）

●明治天皇習志野行幸所

千葉郡二宮町

習志野演習場の一部にして騎兵學校の前に當り、明治天皇明治六年四月三十日此の地に行幸の際には臨時建設の天幕内に御宿　あらせられ、又同八年五月三十日、同九年十一月十七日、同十二年十月二十五日及同十五年六月八日行幸演習天覽の際には御野立所となりし處にして、今其の地點に「明治天皇駐輦之處」と題する碑石建設しあり。（昭和八年十一月文部省指定）

●明治天皇船橋行在所

船橋市

當時櫻屋と稱して山口丈吉の營みし旅館なりしが、明治天皇に於かせられては此所に前後十四回御駐輦遊ばされたり。卽ち明治六年大和田原にて近衞兵刳覽の節四月二十九日御晝餐、同五月一日還幸の節御小憩、同八年習志野原及下志津原に於て近衞步兵及砲兵演習叡覽の節五月二十九日御泊、同六月一日還幸の節御小憩同九年習志野原にて諸兵演習叡覽の節十一月十六日及十七日御泊、同十二年習志野原及下志津原に於て近衞及東京鎭臺諸兵演習叡覽の節十月二十四日及二十六日御泊、同十四年下總種畜場へ行幸の節六月二十八日御晝餐同日御泊、同七月一日還幸の節御泊、同十五年千葉街附近に於て近衞諸兵演習叡覽の節五月一日御晝餐、同月四日還幸の節御晝餐、同日御泊、同十五年下總種畜場へ行幸の節六月五日御晝餐、同日御泊、同月八日還幸の節御泊り遊ばされし光榮の聖蹟なり。然れども現在は二三の室を除き殆ど舊態を失ひ當時を偲ぶよすがも少きも、玉座及隣接の二室は僅かに舊態を存せり。又現所有者は同町古宮忠一氏なり。（昭和九年十二月縣指定）

●明治天皇小金小休所

東葛飾郡小金町

當時京屋と稱せし旅館なりしが現在は玉座及隣室を切離して獨立せしめ保存せり。此所は明治天皇明治十七年茨城縣女化原に近衞砲兵隊演習叡覽の爲め行幸の節十二月一日御小休、同十二月九日還幸の節御小休遊ばされし畏き聖蹟にして、現在は當時の館主治右衞門氏の子梅澤誠太郎氏管理に當れり。（昭和九年十二月縣指定）

●明治天皇丹尾台御野立所

印旛郡八街町

明治天皇明治十五年近衞諸兵天覽の爲め縣下行幸の際五月二日御野立所となりたる所にして、當時築造の土壇を存し舊觀を保てり。（昭和十年三月文部省指定）

●明治天皇成田行在所　印旛郡成田町

成田山新勝寺客殿及庭園の一部にして明治天皇明治十四年六月縣下に行幸の際同月廿九日及同十五年六月同縣下に行幸の際同月六日行在所となりたる所にて主要部分は極めてよく舊觀を存せり。（昭和八年十一月文部省指定）

●龍角寺境内ノ塔趾　印旛郡安食町

龍角寺は天臺宗に屬する古刹にして、緣起に從へば元明天皇の和銅二年龍女化現して當寺を創立せりといふ。當時は南大門、中門、金堂、講堂、東塔、鐘樓、僧房等型の如く建設され居りしが、如此大寺も文明永正の交火災に罹り更に天正八年の大火に烏有に歸し、維新後に於ても明治中期の大火に中門、鐘樓等は類燒し、遂に現存の本堂を殘すのみ。塔趾としては礎石現本堂右側の小高き處に在り半ば顚倒して平衡を失ひ居れり。（昭和八年四月文部省指定）

●伊能忠敬舊宅　香取郡佐原町

現存するものは店舗、母屋、土藏の三棟にして其の内店舗及び土藏は忠敬以前の建築なるも、母屋は寛政五年忠敬自身の設計にかゝり玄關、書齋、納戸等五室あり。店舗にては代々油屋を營みて今日に至れり。また土藏には忠敬の遺著並に遺品を收藏す。（昭和五年二月文部省指定）

●良文村貝塚　香取郡良文村

存在する附近を古くより字貝塚と稱し九段三畝二十五歩に亘りて貝塚群集の狀を呈す。而して貝層は一尺五寸乃至二尺内外の表土を以て蔽はれ最も厚きは十尺を算し他は二、三尺より、五六尺に及び土器、石器等の遺物を含藏せり。遺跡の大部分は完全に保存せられ貝層として斯く厚さ十尺に及ぶは頗る稀有に屬す。（昭和五年二月文部省指定）

●大原幽學住宅　香取郡中和村

大原幽學下總長部村の名主遠藤本藏の招に依り此の地方人民啓發の依囑を受けたり。

斯くて遂年門弟益々增加するに及び天保十三年長部村字入石と稱する一小岡の中腹に幽學自身に設計大工を指揮して一草庵を作れり此れ現存の住宅なり。（昭和十年三月縣指定）

●明治天皇市川上出口行在所　市川市市川

醸造業田中喜兵衞所有邸宅及庭園の一部にして此所は明治天皇明治六年大和田原にて近衞兵演習叡覽の節四月二十九日御少憩遊ばされ五月一日還幸の節再び御少憩遊ばされ、越えて明治八年習志野原及下志津原にて近衞歩兵及砲兵演習叡覽の節、五月二十九日御晝餐同六月一日還幸の節御少憩遊ばされ、翌九年習志野原にて諸兵演習叡覽の節十一月十六日御晝餐同十一月十八日還幸の節御少憩遊ばされし光榮の聖蹟にして現在市川市管理に當れり。（昭和九年十一月文部省指定）

●明治天皇市川第六天前行在所　市川市市川

退役陸軍中將隈元政次氏所有邸宅及庭園の一部にして、此所は明治天皇明治十二年習志野原、下志津原にて近衞及東京鎭臺諸兵演習叡覽の節、十月二十四日御晝餐同月二十七日還幸の節御少憩遊ばされ、越えて明治十四年下總種畜場行幸の節七月二日御少憩翌明治十五年千葉街附近にて近衞兵演習叡覽の節五月五日御晝餐遊ばされ、同年下總種畜場へ行幸の節六月九日御少憩遊ばされし由緒深き聖蹟にして、市川市此の管理をなす。（昭和九年十一月文部省指定）

●下總國分寺址　市川市

境内二千七十五坪天平九年聖武天皇の勅願によりて僧行基の開基せるものなりと傳ふ、延歷の頃寺領五萬束、藥師寺領三萬五千束なりと云へば、當時寺領の豐富なりしことを知るべし。

延元年間諸堂烏有に歸し、大德密善上人之を復興せしも文明十一年再び燒失す。明治維新に際し朱印地は沒收せられ堂宇は頹廢に傾きしにより時の住職は壇徒と協議し官に請ふて遂に客殿庫裡其他數棟を毀てり、今の庫裡は明治二十年の建築、本堂は同二十四年一月燒失せしを以つて四十四年千代田村松ヶ崎覺王寺の大日堂を買收し移して之に充てたるものなり。仁王門は同二十四年燒失、今に再建するに至らず、本尊藥師如來は行基の作なりと傳ふ。（昭和十年四月假指定）

●仁右衞門島　安房郡太海村

全島殆ど岩石を以て成り、而も老樹鬱蒼その半ばを蔽ふて景趣を添ふ。往時源頼朝石橋山の戰に敗れしとき、此處に一時身を潜めたる舊跡にして、當時の島長平野仁右衞門の後裔なほ現住す。（昭和十年三月縣指定）

●明治天皇臼井行在所　印旛郡臼井町

明治十四年六月二十九日同年七月一日同十五年六月六日及同月八日三里塚種畜場行幸の際御往復共御晝餐を召されたる處にしてよく舊規模保存せらる。（昭和十二年十二月十五日文部省指定）

●野田貝塚　東葛飾郡野田町

現場一帶廣範圍に亘る貝塚にしてその大部分は地下三〇糎乃至六〇糎より下方に所謂貝塚の貝屬を埋藏しその厚さは二〇糎乃至一米に及び。（昭和十一年七月十一日知事指定）

●矢作貝塚　千葉市矢作

附近一帶貝塚にして以前より識者の調査研究に委れられ來れるも最近五個の人體發見せられてより考古學上重要なるものとして指定せらる。（昭和十二年四月假指定）

五　天然記念物

●岩井の蘇鐵　安房郡岩井町

根圍り十九尺、高さ約二十尺、枝の擴がり約十五尺にして周圍七尺餘の本幹を中心に數本の幹を出せり。（昭和十年十月縣指定）

●北三原の大樟　安房郡北三原村

村社山神社境内にあり、目通三十四尺五寸、樹高九十九尺、樹齡約千年なり。（昭和十年三月縣指定）

●清澄の大杉　安房郡天津町

清澄寺の本堂前廣場の南隅にあり根周り五十七尺、樹高約百六十尺に達し全國屈指の大杉なり、樹幹の下部に縱に割目ありて内部は空洞なるものゝ如く、外邊に小佛像を安置しあり。（大正十三年十二月文部省指定）

●天津明神の鯛　安房郡天津町

明神の浦と稱する海面にて小舟に乘り船側をたゝき餌をまけば多數の黑鯛其の他の魚類躍り出で美觀を呈す。（昭和十年三月縣指定）

●まるばちしやの木　安房郡天津町

神明神社境内にあり、最大なるもの目通六尺、枝下六尺、高さ三十六尺餘、大なるもの數本あり。（昭和十年十一月縣指定）

●鯛の浦鯛棲息地　安房郡小湊町

蓮華潭の西南、巨巖海中に駢峙すること三丁餘、古來釣魚を嚴禁せるをもつて鯛魚多く棲息す、遊覽者一たび船端を敲き餌を投ずるときは大小鯛群をなして浮き上り奇觀言ふべからず。其の能く人に狎れ群遊し居るの狀態は世界に於ても稀なるものなり。（大正十一年三月文部省指定）

●上野村の大椎　夷隅郡上野村

寂光寺境内にあり、目通二十五尺五寸、樹高約八十尺、樹勢稍衰ふる傾あり。（昭和十一年一月縣指定）

●高照寺の乳公孫樹　夷隅郡勝浦町

高照寺の境内にありて火災に罹りし爲現在高さ約五間半に過ぎざれども大なる乳多數發生せる爲全國的に珍らしく乳は最も大なるもの直徑二尺、長さ六尺に達するものあり。（昭和十年三月縣指定）

●白椿樹　夷隅郡長者町

不動院境内にあり、枝下の周圍八尺、枝長約十八尺乃至二十一尺のもの三、縣下一の大椿なり。（昭和十年十一月縣指定）

●長福寺の槇　夷隅郡布施村

長福寺境内にあり、目通十三尺餘、高さ三十有餘尺、樹齡約八百餘年なり。（昭和十年十月縣指定）

●三島の月樫　君津郡三島村

周圍二十六尺、高さ六十九尺、枝、東西九十六尺、南北百六十九尺樹齡不明なれど千年に近かるべし。（昭和十年三月縣指定）

●環の大樟　君津郡環村

興源寺境内にあり、目通三十七尺、高さ約九十六尺樹齢不明なれども縣内第一の大樟なるべし。（昭和十年三月縣指定）

●竹岡村光藻發生地　君津郡竹岡村

光藻の發生は縣下處々にありて敢て珍らしからざるも、其の多くは池水の枯渇或は水質、池底の變化によりて枯死し常に一定せる發生地と稱し得るもの尠なし。同地の光藻は洞窟内にありて四季常に光を發し毎年時期によりて水田に流出し燦爛たる黄金色を現出す。故に一名『こがれ井戸』と呼ぶ。（昭和三年十一月文部省指定）

●はいはまぼつす　長生郡東浪見村

櫻草科に屬する宿根草にして莖は十糎乃至二十糎、匐枝によりて繁殖し葉は卵形、夏季白色小形の花を開く。（昭和十年十月縣指定）

●太東村海濱植物群落地　長生郡太東村

遂年波浪の浸蝕を受けて地形の變化を來し、一定の面積を測定し難きも海岸一帯に亘り黒松、山茶、やぶにつけい、まるはぐみ等の海濱樹叢あり、また之と相隣接せる砂丘にも、はまひるがほ、はまゑんどう、はまばうふう、こうぼうむぎ等固有の草類發生して一の群落をなす。（大正九年七月文部省指定）

●一松村肉食植物群生地　長生郡一松村

七村堰の中の『沖の島』を中心とする二反歩餘の地域にして、たぬきも、みみかきぐさ、いしもちそう、もうせんごけ等の食蟲植物、こまぐさ、ひめなへ、ひなのかんざし、てんつき、うきしば、まるばおもだか等の水濕地性植物群生せり。（昭和十年十一月縣指定）

●關の羅漢槇　長生郡關村

樹齢約七百年、年數の割合に大ならざれども、枝葉の手入よく、樹姿頗る整美なり。（昭和十年十二月縣指定）

●成東町肉食植物産地　山武郡成東町及豐成村

招野一帯の濕潤地に亘り、いしもち草、もうせん苔、みゝかき草等肉食植物叢生し昆蟲類の捕獲せらるゝを見る。

種類の珍奇と區域の廣大なる點において本邦稀有の産地にして、また同地は初夏の花菖蒲、秋季の七草等自然の草花に富み宛も花苑の觀あり。（大正九年七月文部省指定）

●夫婦銀杏　市原郡八幡町

八幡神社境内にありて、目通三十三尺五寸、高さ四十五尺餘、樹齢千二百年餘と稱せらる。（昭和十年七月縣指定）

●ヤマバウシ樹　市原郡市東村

目通七尺、幹長二十五尺、恐らく全國有數のものなるべし。（昭和十年七月縣指定）

●二十世紀梨原樹　東葛飾郡八柱村

明治二十一年の栽植にかゝり同三十七年青梨の優秀なる品種として二十世紀と命名せらる。鳥取、岡山、奈良、新潟等の諸縣下に多く栽培せらるゝ二十世紀梨の原樹なり。（昭和十年十二月文部省指定）

●榧の木　東葛飾郡我孫子町

東源寺境内にあり、目通十三尺、高さ約五十一尺にして『まかや』の大木なり。（昭和十年十月縣指定）

●風早の榊　東葛飾郡風早村

神明神社境内にあり、目通五尺、高さ二十二尺の榊以下三本あり、稀なる大木なり。（昭和十年十月縣指定）

●公津の大杉　印旛郡公津村

麻賀多神社境内にあり、目通二十五尺、高さ約百八尺、樹齢は不明なれど縣内有數の大杉なり。（昭和十年三月縣指定）

●木下の貝層　印旛郡木下町

洪積統の成田層に屬する厚さ約二米の花石層にして、化石はかしばんうに、あかにし、つめたがひ、いたやがひ等十八種の貝類なり。（昭和十年十月縣指定）

●神崎の大樟　香取郡神崎町

神崎神社の社傍にあり、根周り四十尺に及び明治四十一年本社出火の際上部を燒却し高さ二十五尺に止まる、俗に『なんじやもんじや』と呼び水戸黄門公の命名に因むと傳ふ。（大

正十五年十月文部省指定）

●神崎森　香取郡神崎町

神崎神社境内の森林にして、椎、椿、欅、杉、とりもちの木、たぶの木、しろだも等の大木、『シヤセンシダ』『コガネシノブ』『シシラン』等の珍奇の草木あり。古代原始林の一部の遺物なり。（昭和十年十月縣指定）

●十六島螢蝦發生地　香取郡佐原町

向津砂場荒川一帶に亘り夏季中夜間白味がかりし綠色の燐光を放てる小蝦が水面近く遊泳して美觀を呈す。（昭和九年二月文部省指定）

●府馬の大樟　香取郡府馬町

宇賀神社境内にあり、根周り三十二尺、高さ四十七尺にして蓋し樟樹として稀に見る巨木たり。（大正十五年十月文部省指定）

●千葉寺の公孫樹　千葉市千葉寺

幹の中半部より幾多の乳柱を生ず、主幹は火災によつて損じたれど樹勢旺盛、目通二十六

尺高さ約三丈、樹齡約千年なり。（昭和十年十一月縣指定）

●鵜の森　千葉市生實郷

大巖寺境内の森林に古來『うみう』の大群棲息し偉觀を呈す、その數何千なるやを知らず。（昭和十年八月縣指定）

●斥候（モノミ）の松　千葉市生實郷

大巖寺の近くにあり、目通十六尺餘枝下約七尺高さ約五十四尺にして枝張り東南約四十三尺、西南約四十四尺あり。（昭和十年八月縣指定）

●東寺山の大松　千葉市東寺山

鹿島神社境内にある『くろまつ』にして目通二十二尺、高さ百二十五尺全國稀なる大松なり。（昭和十年十月縣指定）

●千本公孫樹　市川市八幡

根基の周圍より多數の枝幹發生して聯立す、千本公孫樹の名これに因りて起る。目通り周圍三十六尺樹高六十五尺に達し稀なる巨樹なり。（昭和六年二月文部省指定）

●向山ふじさくら樹林

君津郡天神山村

樹高約六米に達し、花色は純白又は瓣端帶紅色花瓣は五瓣の外六瓣、九瓣又は旗瓣を有するものある等個體的變異に富める點に於て學術上極めて有益なるものとす。

（昭和十年四月文部省指定）

●常福寺のらかんまき（俗稱枝だれまき）

長生郡關村

幹圍根廻五八米、目通五・一米、地上二・五米ノ周圍六・五米。

核樹は目下根の露出を防ぐ爲め根元に土寄をなす外何等手當の方法不明に付自然のまゝなれども枝葉は克く鬱蒼として繁茂し觀るからに千古の俤を表せり、傳說より想像するに恐らく千四五百年を經過したるものなるべし。然し拾年前と比較するに稍衰へたる感あり、長さ數米の枝條幾本となく自然に垂下するを以て地方人は俗稱「枝だれまき」と呼べり。

（昭和十二年十二月十五日文部省指定）

六、歷代長官

（任命年月）	（官氏名）	（記事）
明治元年四月八日	下總縣知事　佐々布直武	明治元年十二月十八日罷
同　年十二月十八日	同　水筑龍	同二年一月十三日葛飾縣知事ニ改
同　二年二月九日	宮谷縣知事　初上總安房知事　柴山典	同四年七月二十七日罷
同　三年一月十二日	葛飾縣知事　矢野光僕	同四年十一月十五日廢縣任深津縣權令
同　四年七月二十七日	宮谷縣權知事　柴原和	同年十一月十三日廢縣任木更津縣權令
同　四年十一月十三日	印旛縣權令　河瀨秀治	同六年二月七日群馬兼入間權令
同　四年十一月十三日	木更津權令　柴原和	同六年七月十五日廢縣任千葉縣權令
同　六年六月十五日	兼任印旛縣權令　柴原和	同六年六月十五日廢縣任千葉縣權令
同　六年六月十五日	千葉縣權令　柴原和	同十三年三月八日任議官
同　十三年三月八日	千葉縣權令　船越衛	明治十九年七月七日地方官制被定任知事、同二十一年十一月三十日任元老院議官

同二十一年十一月廿日	千葉縣知事	石田 英吉	同二十三年七月十六日任農商務次官
同二十三年七月廿五日	同	藤島 正建	同二十六年三月三十一日非職
同二十六年三月卅一日	同	兵頭 正懿	同二十九年八月十二日依願免官
同二十九年八月十二日	同	阿部 浩	同三十一年四月七日非職
同三十年四月七日	同	柏田 盛文	同三十一年一月十二日依願免官
同三十一年一月廿二日	同	安藤 謙介	同三十一年八月三日非職
同三十一年八月三日	同	阿部 浩	同三十六年二月廿七日任新潟縣知事
同三十六年二月廿七日	同	石原 健三	同四十一年三月廿八日任高知縣知事
同四十年三月廿八日	同	有吉 忠一	同四十三年六月十四日任朝鮮總督府總務長官
同十三年六月十四日	同	告森 良	大正二年六月一日依願免官
大正二年六月一日	同	池松 時和	同三年四月二十八日任滋賀縣知事
同三年四月二十八日	同	佐柳 藤太	同六年一月二十九日休職
同六年一月二十九日	同	折原巳一郎	同十一年六月十七日任兵庫縣知事
同十一年六月十七日	同	齋藤 守圀	同十三年六月二十四日任埼玉縣知事
同十三年六月二十四日	同	元田 敏夫	同十五年九月二十八日休職
同十五年九月二十八日	同	縣 忍	昭和二年五月十七日任群馬縣知事
昭和二年五月十七日	同	福永 章介	同四年一月三十日卒去
同四年二月六日	同	宮脇 梅吉	同年七月五日休職
同四年七月五日	同	後藤多喜藏	同五年八月廿六日依願免官
同五年八月二十六日	同	石田 馨	同六年六月二十七日任內務省神社局長兼造神宮副使
同六年六月二十七日	同	堀田 鼎	同六年十一月九日依願免官
同六年十一月九日	同	岡田 周造	同六年十二月十八日任山口縣知事
同六年十二月十八日	同	大久保留次郎	同七年六月二十八日休職
同七年六月二十八日	同	岡田 文秀	同九年十月三十日任內務省衛生局長
同九年十月三十日	同	石原雅二郎	同十二年七月七日依願免官
同十二年七月七日	同	多久 安信	現職

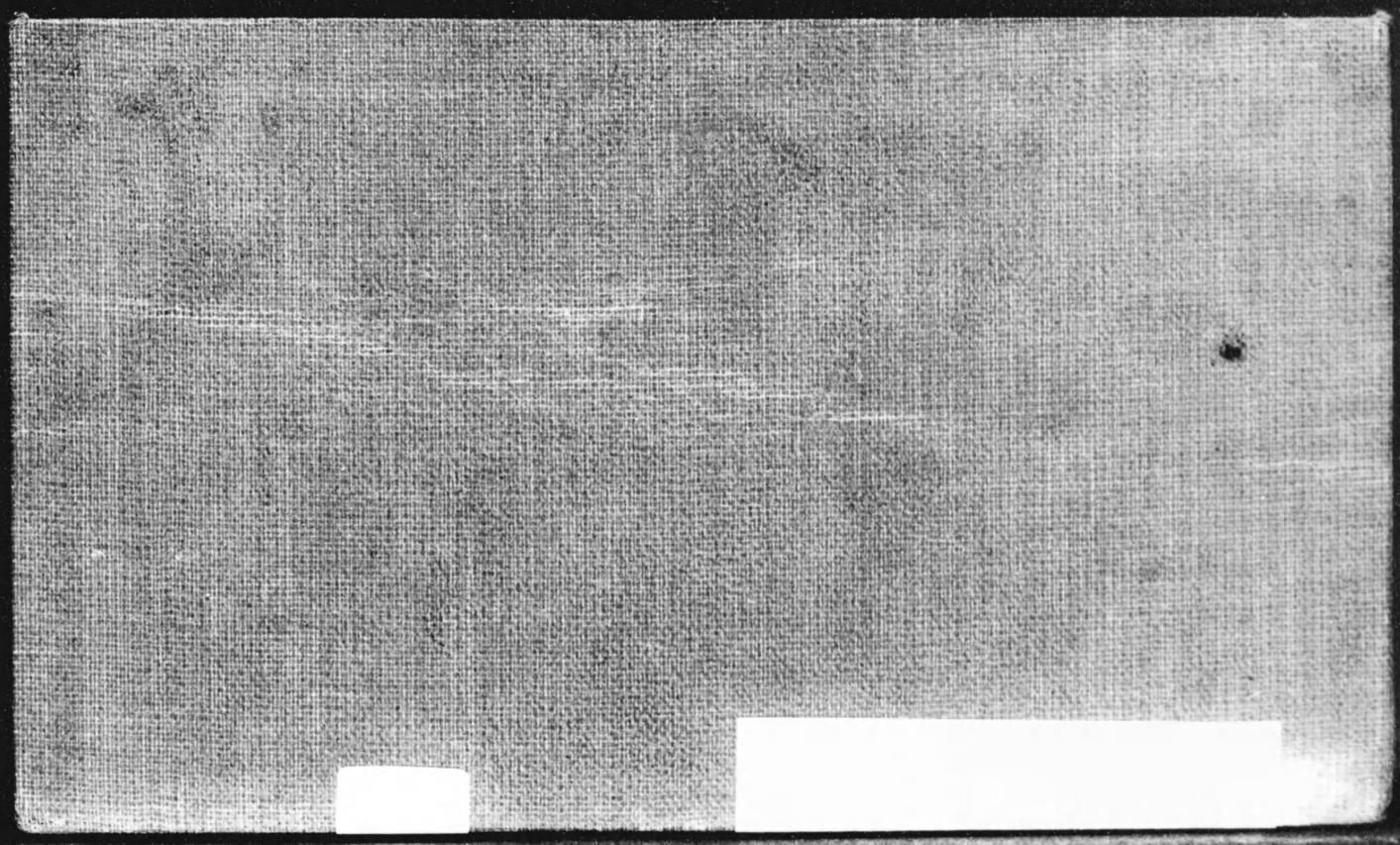
（住所）	（氏名）
●貴族院議員	
銚子市	濱口儀兵衛
東葛飾郡鎌ヶ谷村	三橋彌
●衆議院議員	
東京市芝區今入町一〇	多田滿長
東京市小石川區駕籠町九一	篠原陸朗
東京市大森區山王二丁目三五	川島正次郎
印旛郡本埜村下井三四	吉植庄亮
東京市澁谷區千駄谷町三ノ五二七	今井健彦
東京市王子區稻付町二丁目一三一	岩瀨亮
山武郡豐岡村山室二九九	土屋清三郎
東京市麴町區下六番町一三	池田清秋
山武郡蓮沼村二ノ一九五四	小高長三郎
東葛飾郡富勢村布施六一五	成島勇
●縣會議員	
千葉市	◎島田彌久
千葉市	△增田榮一
市原郡東海村	藤田昌邦
同　郡牛久町	△星野懿吉
東葛飾郡野田町	△戸邊五右衛門
船橋市	松本榮一
東葛飾郡新川村	柳澤清春
船橋市	宇賀山金次郎
印旛郡佐倉町	木倉和一郎
同　郡六合村	岩井力三郎
同　郡佐倉町	△木村康哉
同　郡公津村	鈴木亮
長生郡豐榮村	△糸井玄
山武郡片貝町	△伊藤博愛
同　郡公平村	石橋彌
同　郡蓮沼村	加瀨丹藏
香取郡神里村	諏訪寛治
同　郡山倉村	永島房次郎
同　郡大倉村	△成毛種吉
海上郡飯岡町	横田清藏
匝瑳郡八日市場町	大枝十兵衛
君津郡木更津町	石川善之助
同　郡馬來田村	野村惠一郎
同　郡貞元村	原德治
夷隅郡勝浦町	吉野力太郎
同　郡上野村	市川武雄
同　郡長者町	○田中恭三
船橋市	△青木泰助
安房郡館山北條町	高木勇次郎
千葉市	西川測吉
銚子市	土手伊平
市川市	福地新作
安房郡千倉町	△押元才司
同　郡主基村	川名傳
同　郡館山北條町	石崎常夫

君津郡秋元村　山田重太郎　東葛飾郡南行徳町　矢島喜一郎
海上郡嚶鳴村　崎山太良右衛門　香取郡久賀村　菅澤重義
東葛飾郡松戸町　△渡邊藤一郎

◎ハ縣會議長　○ハ同副議長　△ハ參事會員　缺員二名

昭和十三年三月廿五日印刷
昭和十三年三月三十日發行

千葉縣

東京市小石川區西古川町二五番地
印刷者　渡邊一郎
東京市小石川區西古川町二五番地
印刷所　中外印刷株式會社

14
4
946